取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

TABLE OF CONTENTS
目次

別冊「後席用取扱書」、「エレクトロマルチビジョン取扱書」も併せてお読みください。

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

6-3. 初期設定

さくいん

外観

アウターミラー* P. 55
ボンネット P. 229
ワイパー P. 137
車幅灯 P. 133
フロントフォグライト P. 135
ヘッドライト（ハイビーム）
P. 133
ヘッドライト（ロービーム）
P. 133
フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯
P. 133
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯
P. 133
BTO00BM001

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロント席

シートベルト P. 47
ヘッドレスト P. 44
運転席 SRS エアバッグ P. 68
A
B
C
BTO00BM003
フロントシート P. 39
グローブボックス P. 195
助手席 SRS エアバッグ P. 68

※：別冊「後席用取扱書」をご参照ください。

B
シートヒータースイッチ P. 209
アジャスタブルショルダーベルトアンカースイッチ P. 48
パワーウインドウスイッチ P. 58
ウインドウロックスイッチ P. 58
ドアロックスイッチ P. 28
運転席
助手席
後席
右
左
シートヒーター
運転席
後席
BTO00BM006
ドアレバー P. 28
灰皿 / シガレットライター P. 206、P. 207

C

シーケンシャルシフト車

シフトレバー P. 110

カップホルダー P. 199

シフトロックスイッチ P. 297

助手席前後位置調整スイッチ P. 40

助手席リクライニング調整スイッチ P. 40

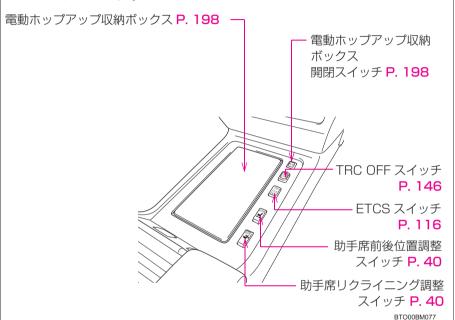
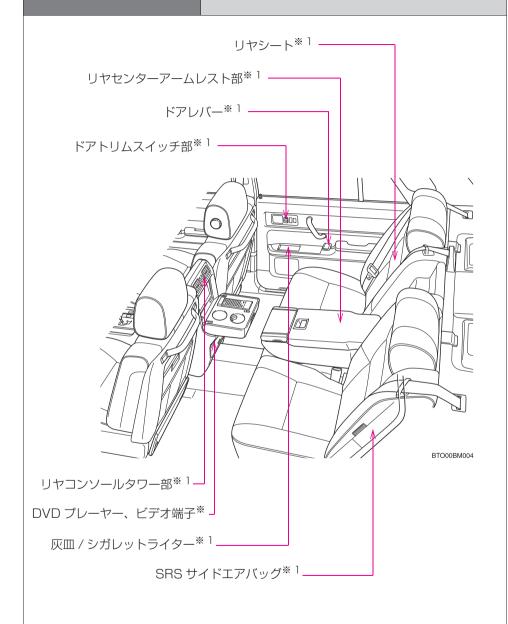
BTO00BM007

TRC OFF スイッチ P. 146

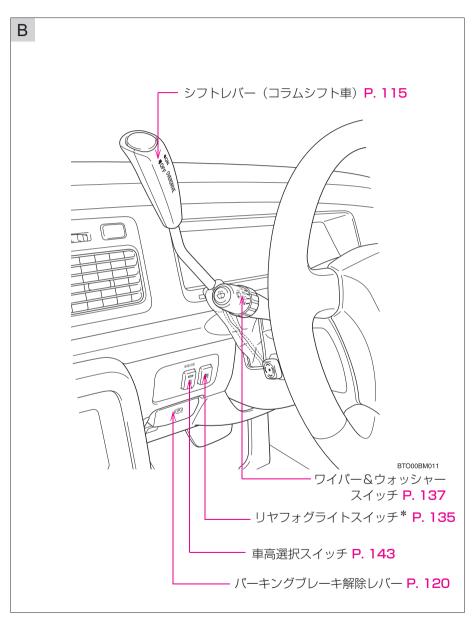
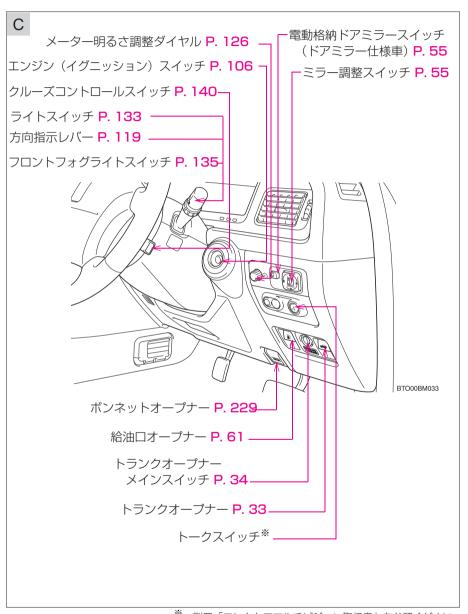
ETCS スイッチ P. 112

C

コラムシフト車

電動ホップアップ収納ボックス P. 198
電動ホップアップ収納
ボックス
開閉スイッチ P. 198
TRC OFF スイッチ
P. 146
ETCS スイッチ
P. 116
助手席前後位置調整
スイッチ P. 40
助手席リクライニング調整
スイッチ P. 40
BTO00BM077

リヤ席

※1：別冊「後席用取扱書」を参照ください。
※2：別冊「エレクトロマルチビジョン取扱書」を参照ください。

インストルメントパネル

※：別冊「エレクトロマルチビジョン取扱書」を参照ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：別冊「エレクトロマルチビジョン取扱書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート（ 子供専用シート）の取り付け」（→P. 89）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

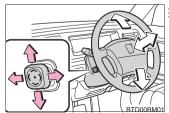
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 マスターキー（ワイヤレス機能装着）
ワイヤレス機能の作動
（→P. 25）

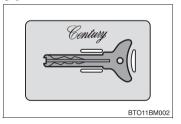
2 マスターキー（ワイヤレス機能非装着）

3 サブキー（ワイヤレス機能非装着）

4 キーナンバープレート

知識

■カードキーについて

キーを閉じ込んでしまったときなどの緊急時にケースからはずして使用します。

- カードキーではエンジンの始動はできません。
- カードキーは、財布や免許証入れなど常に携帯するものの中に保管してください。

■駐車場などでキーを預けるときは

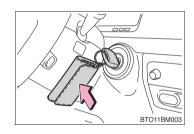
必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にします。
(→P. 34)
マスターキーを取り出し、サブキーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。
(→P. 299)

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■便利機能について

搭載されているキーホルダーをステアリングコラムカバーに近付けると磁石により固定することができます。

■販売店で設定可能な機能

運転席ドアにキーを挿し込んで、キーを1回前方（後方）にまわすと運転席のみ解錠（施錠）し、もう1回（計2回）まわすとすべてのドアが解錠（施錠）されるように変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 317）

注意

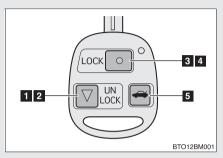
■キーの故障を防ぐために

- ●キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。
- ●キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

■ステアリングコラムカバーについて

ステアリングコラムカバーにクレジットカードなど磁気カードを近付けないでください。ステアリングコラムカバーには、搭載されているキーホルダーを固定するための磁石が内蔵されているため、磁気カードを近付けるとカードが使えなくなるおそれがあります。

ワイヤレスリモコン

ドアを解錠・施錠、トランクを解錠できます。

1 全ドアを解錠する

2 ドアガラスを開ける (押し続ける)

3 全ドアを施錠する

3 ドアガラスを閉める (押し続ける)

5 トランクを解錠する(長押し)

知識

■作動の合図

ドアの解錠・施錠：ブザーが鳴ります。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

ドアガラスの開閉：ブザーが鳴ります。

トランク開：ブザーが鳴ります。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■トランク開操作について

うまく解錠されなかったとき、トランクスイッチを約 1 秒以上押し続けても解錠操作は繰り返されません。スイッチを押し直してください。

■作動条件について

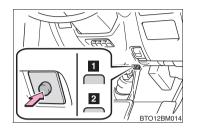
- 周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車（運転席側）から約 1m まで近付いて操作してください。
- エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときや、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■電池の消耗について

電池の標準的寿命は 1 ～ 2 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。（→P. 257）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、ブザーが 1 回鳴り自動的に施錠されます。

■ブザー音を解除するには

スイッチを押すと、ブザー音が解除します。

ブザー音を復帰させるには、再度スイッチを押してください。

1 ブザーあり

2 ブザーなし

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 317）

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■ブザー解除スイッチについて

ブザー解除スイッチの左隣りに、タイヤ空気圧警報システムのセットスイッチ（→P. 225）があるため、押し間違えないよう注意してください。

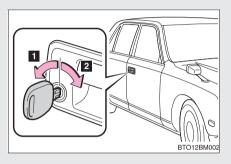
ドア

ワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ ワイヤレス機能

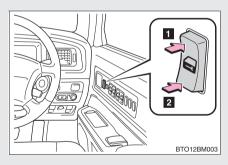
→P. 25

■ キー

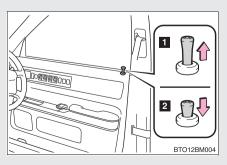
BTO12BM002

1 全ドアを解錠する
2 全ドアを施錠する

運転席では、キーをまわしたまま保持すると、ドアガラスが開閉します。
（ドアキー連動ドアガラス開閉機能）

■ ドアロックスイッチ

BTO12BM003

1 全ドアを解錠する
2 全ドアを施錠する

■ ロックボタン

BTO12BM004

1 ドアを解錠する
2 ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックボタンが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックボタンを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

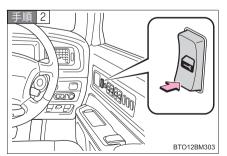
キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

オートドアロック・アンロック機能

<table>
<tr><th>機能</th><th colspan="2">作動内容</th></tr>
<tr><td>車速感応オートロック</td><td colspan="2">車速が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自動解錠機能</td><td>A</td><td>エンジン スイッチを“ ON ”から“ ACC ”または“ LOCK ”にすると全ドアが解錠されます。</td></tr>
<tr><td>B</td><td>エンジン スイッチが“ ON ”の時、シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。</td></tr>
<tr><td>自動施錠機能</td><td colspan="2">エンジン スイッチを“ ON ”にした後、シフトレバーを P から D に動かすと全ドアが施錠されます。</td></tr>
</table>

■ 車速感応オートロック機能の設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。
または、トヨタ販売店でも設定と解除が変更できます。

手順 1 すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ ON ”にする
（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

運転席ドアロックスイッチの施錠側を約 5 秒間押して離す

機能を設定・解除するには、同じ手順を行います。

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■リヤドアクローザー

ドアが半ドア状態になったとき、リヤドアクローザーが働き、ドアが自動で完全に閉まります。

- ●エンジン　スイッチがどの位置であっても、リヤドアクローザーは作動します。
- ●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、リヤドアクローザーは作動しません。
- ●リヤドアクローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックボタンが施錠側のときを除く）
- ●リヤドアクローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定や、オートドアロック・アンロック機能（自動解錠機能 A 以外）の設定・解除などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 317）

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●全てのドアを施錠する

●全てのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■リヤドアクローザーについて

●ドアが半ドア状態のときリヤドアクローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●半ドア状態からリヤドアクローザーが作動するまで数秒かかります。指などをドアの隙間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ロックボタンが施錠側になっているドアは、リヤドアクローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

⚠注意

■リヤドアクローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、リヤドアクローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

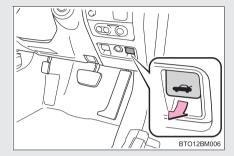
■オートドアロック・アンロック機能の切りかえについて

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。解錠・施錠の作動がない場合、切りかえられていない場合があります。

トランク

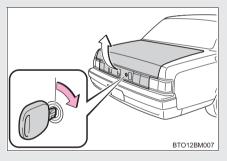
トランクオープナーやキー、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

BTO12BM006

レバーを引き上げて、トランクのロックを解除する。

■ 車外からトランクを開けるには

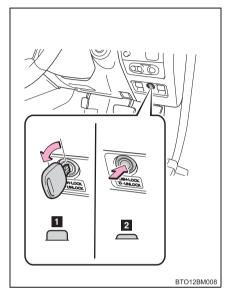
キー

BTO12BM007

キーシリンダーにマスターキーを挿し込み右にまわす

サブキーでは解錠できません。

ワイヤレス機能

→P. 25

トランクオープナーを使用できなくするには

トランクオープナーメインスイッチをLOCKにする

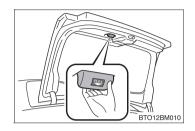
1 UNLOCK

2 LOCK

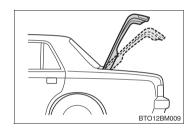
サブキーは使用できません。

ワイヤレスリモコンでもトランクを開けられなくなります。

知識

■ **トランクグリップ**

トランクを閉めるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■ **中間ストッパー**

雨天時などでトランク内に雨を入りにくくするためにトランクを中間位置で止めることができます。

■ **トランクライト**

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■ **ラゲッジドアクローザー**

トランクが半ドア状態になったとき、ラゲッジドアクローザーが働きトランクが自動で閉まります。

● エンジン スイッチがどの位置であっても、ラゲッジドアクローザーは作動します。

● ラゲッジドアクローザーが作動しないときには、トランクをいったん半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ **トランクオープナーメインスイッチを OFF にしたあとに駐車場などでキーを預けるときは**

→P. 23

⚠ 警告

■走行中の警告

● 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

● 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

● お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

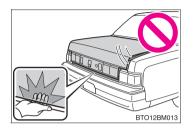
- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランク上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■**ラゲッジドアクローザーについて**

BTO12BM013

トランクが半ドア状態になったとき、ラゲッジドアクローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

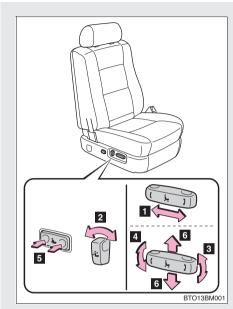
注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

トランクが開いた状態でトランクライトが点灯したまま長時間放置しないでください。

■**ラゲッジドアクローザーの故障を防ぐために**

ラゲッジドアクローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整

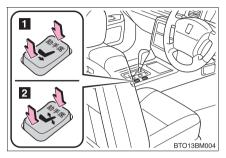
4 クッション後端の上下調整

5 腰部硬さ調整
（運転席のみ）

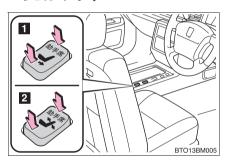
6 クッション全体の上下調整

助手席シート調整スイッチ

運転席から助手席を操作できます。

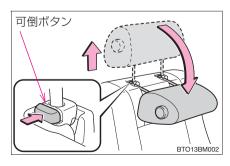
シーケンシャルシフト車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

コラムシフト車

1 前後位置調整

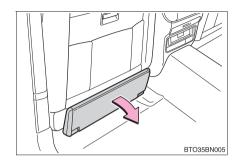
2 リクライニング調整

可倒式ヘッドレスト（助手席）

助手席のヘッドレストをお好みの状態にすることができます。

ヘッドレストをいちばん上まで引き上げたあと、可倒ボタンを押して、さらに引き上げ、ヘッドレストを前に倒します。

フットレスト（助手席）

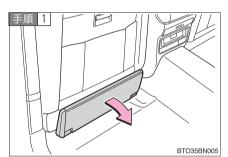
後席にお乗りになる方の足元の快適性を高めます。

BTO35BN005

床につくまで手前に倒す

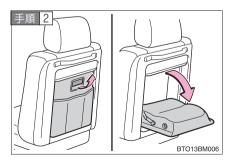
オットマンシート（助手席）

後席にお乗りになる方に足を伸ばして頂くことができます。

手順 1

BTO35BN005

フットレストを床につくまで手前に倒す

手順 2

BTO13BM006

レバーを引き上げ、背もたれの中央部を後方へ倒します。

リヤ席、助手席はお好みの位置に調整してください。

知識

■オットマンシートについて

フットレストを倒さずにオットマンを使用することもできますが、フットレストが下がってくることがあります。

■フットレストの角度について

助手席シートのクッションの上下調整（→P. 39）などにより、フットレストの角度を調整できます。

■可倒式ヘッドレストについて

シートのポジションにより、ヘッドレストと車両天井が干渉し可倒できない場合があります。その際は、助手席のシート上下調整を下げるなど、無理な力をくわえず倒してください。

警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■運転席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■可倒式ヘッドレストについて

ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを引き起こして正しい位置に調整してください。

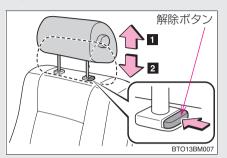
注意

■運転席からの助手席操作について

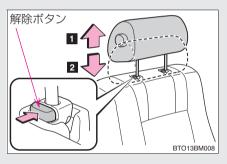
操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

ヘッドレスト

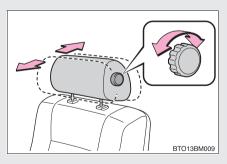
■ 上下調整

運転席

1 上げる
2 下げる

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

助手席

1 上げる
2 下げる

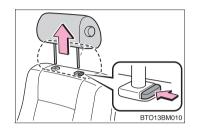
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

■ 前後調整

ツマミをまわす

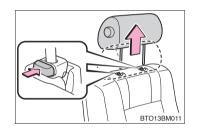
ツマミを前にまわすと前方へ、うしろにまわすと後方へ移動します。

知識

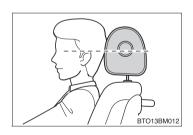
■運転席ヘッドレストの取りはずし

BTO13BM010

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

■助手席ヘッドレストの取りはずし

BTO13BM011

両側のボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

■ヘッドレストの高さについて

BTO13BM012

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

フロントシートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

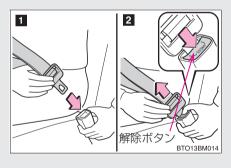
BTO13BM013

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

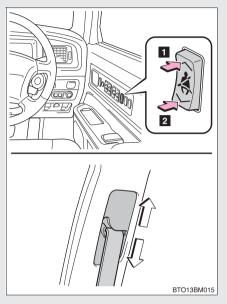
■ 着け方、はずし方

BTO13BM014

1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

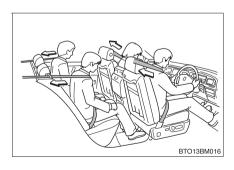
2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節

1 上げる

2 下げる

スイッチを押します。

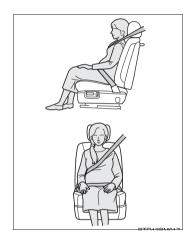
シートベルトプリテンショナー

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを巻き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 47)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 79)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 47)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝突を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは 1 つにつき一人で使用する
お子さまでも 1 つのベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる

●シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

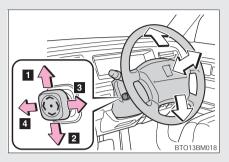
■シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

1 上がる
2 下がる
3 手前に動く
4 前方に動く

知識

■電動チルト＆テレスコピックステアリングの作動条件

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているとき、調整することができます。

■バッテリーあがり防止機能

キーを挿し込みエンジン スイッチが“ LOCK ”のままで約 30 分経過すると、バッテリーあがり防止のため調整スイッチを操作しても作動しなくなります。
この場合、一度キーをエンジン スイッチから抜いて再度挿し込むと作動します。

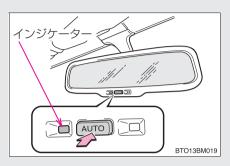
警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

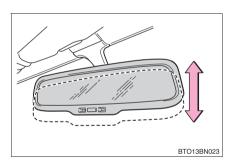
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

BTO13BM019

自動モードの切りかえ

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

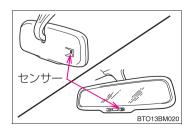
エンジン スイッチを“ ON ”にしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

BTO13BN023

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

■センサーの誤作動防止

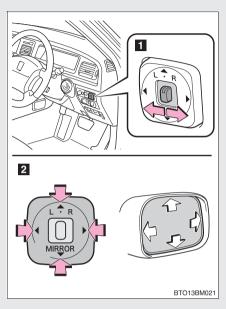
BTO13BM020

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

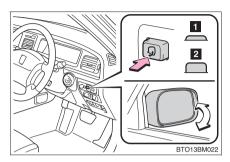
アウターミラー

スイッチで鏡面の角度調整ができます。

1 ミラーを選ぶ

（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する

調整したあとは、スイッチを中立にもどします。

アウターミラーを格納するときは（ドアミラー装着車）

ボタンを押してドアミラーを格納する。

1 格納

2 復帰

知識

■作動条件

エンジン スイッチが " ACC " または " ON " のとき

■ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 171）

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 219）を行ってください。

・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり清潔でない布でふいたとき

・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき

・地下、屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき

・鏡面に傷を付けたとき

⚠警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない（ドアミラー装着車）
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは（ドアミラー装着車）

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

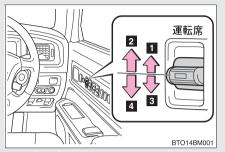
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

⚠注意

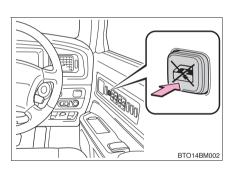
■レインクリアリングミラーの取り扱いについて

- ●ミラーが凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
  親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- ●シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- ●砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることのできないドアのパワーウインドウスイッチで、「閉める」の位置で上げ続けることでドアガラスを閉めることができます。

■運転席スイッチ

助手席・後席ドアガラスを自動で開けることはできますが、自動で閉めることはできません。

■販売店で設定可能な機能

ドアキー連動開閉機能（→P. 28）やドアロック連動ドアガラス開閉機能（→P. 25）などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 318）

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことをお守りください。

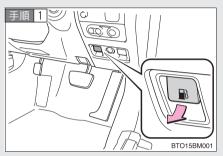
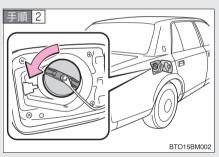
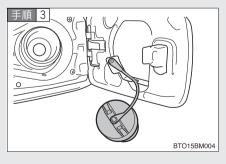
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

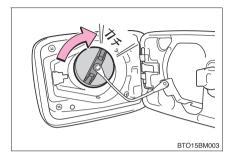
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを引き上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

テザーをフックにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

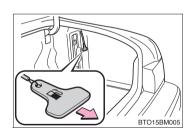
知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■燃料タンク容量

約 95 L

■フューエルリッドオープナーで給油口が開かないときは

トランク内にあるプレートを引いて開けます。
プレートを引いて開ける方法は応急的なため、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

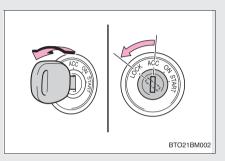
注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジン スイッチを“ LOCK ”にすると作動します。

登録されたマスターキー、およびサブキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除されます。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■機能が正常に働かないおそれのある状況

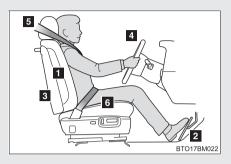
→P. 27

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 39）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 39）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 39）
4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 52）
5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 44）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 47）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

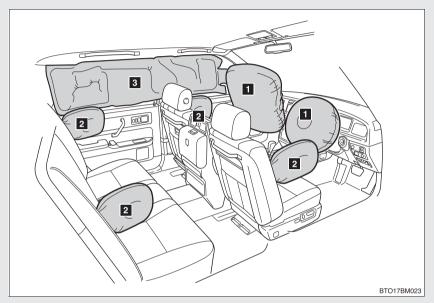
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席とリヤ席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ席乗員の主に頭への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラー、ルーフサイドレール、などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

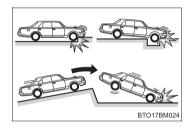
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRSエアバッグが作動するとき(SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。

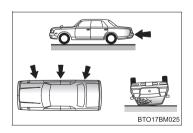
■衝突以外で作動するとき(フロント SRS エアバッグ)

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

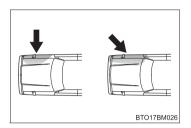
■SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

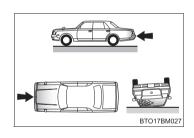
●後方からの衝突

●横転

■SRSエアバッグが作動しないとき(SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

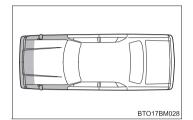
●後方からの衝突

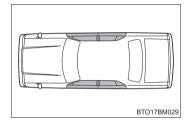
●横転

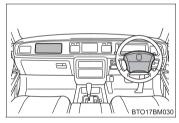
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

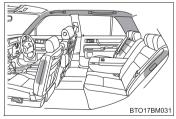
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17BM028

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17BM029

●SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17BM030

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17BM031

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 79)

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

BTO17BM032

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

BTO17BM033

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

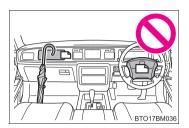
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

BTO17BM034

●ドアやフロントピラー・センターピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない

BTO17BM035

●助手席や、リヤ外側席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

警告

■SRS エアバッグについて

●ダッシュボード、ステアリングパッド部、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー・センターピラー、ルーフサイドレールの修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

助手席乗員検知システム

助手席シート座面に内蔵された乗員検知センサーと助手席シートベルトバックル内のスイッチ（シートベルトプレートがバックルに挿し込まれると ON）により乗員の有無を検知します。

知っておいていただきたいこと

助手席検知システムにより助手席に乗員がいないと判断したときは、次のシステムの作動を停止します。

- 助手席プリテンショナー
- 助手席 SRS エアバッグ
- 助手席 SRS サイドエアバッグ

<table>
<tr><th>乗員検知
センサー</th><th>シートベルトバックル
スイッチ</th><th>助手席プリテンショナー
助手席 SRS エアバッグ
助手席 SRS サイドエアバッグ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">乗員非検知</td><td>OFF
（非作動）</td><td>システム停止
（乗員がいないと判断）</td></tr>
<tr><td>ON
（着用）</td><td rowspan="3">システム作動可能状態
（乗員がいると判断）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">乗員検知</td><td>OFF
（非作動）</td></tr>
<tr><td>ON
（着用）</td></tr>
</table>

知識

■乗員検知センサーについて

BTO17BN038

- 乗員検知センサーは、助手席シート座面に、ある一定以上の重量がかかったとき、検知します。従って、荷物などを置いた場合にも検知し、助手席シートベルト非着用警告灯（→P. 277）が点灯することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属する取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">I
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>II
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>III
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
</table>

● 上記に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	×
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 81）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 82）を確認して、適切なシートを選択してください。

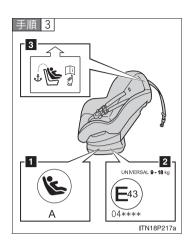
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0^{+}」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0^{+}」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

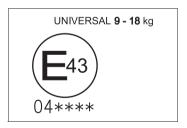
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 83）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 89）を示すマーク

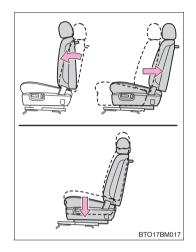
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

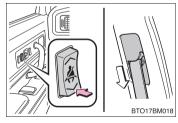
A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

はじめにオットマンシートの背もたれ中央部がしっかり固定されていることを確認してください。(→P. 41)

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●シートをいちばん下へ下げる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください（→ P. 90、P. 91）。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

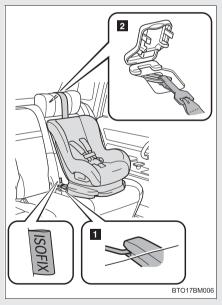
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシート（子供専用シート）の取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

BTO17BM005

シートベルトによる取り付け
（→ P. 90）

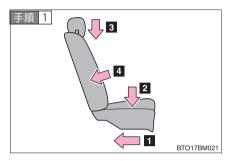
BTO17BM006

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 91）

リヤシートの外側の座席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。）

2 トップテザーアンカー
（→ P. 92）

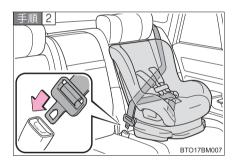
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

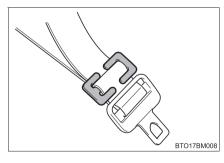
シートベルトで固定する

シートを調整する

1 シートをいちばんうしろにする（→ P. 39）

2 シートクッションをいちばん下に下げる（→ P. 39）

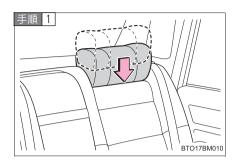
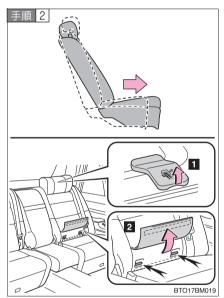
3 ヘッドレストをいちばん下に下げる（→ P. 44）

4 ランバーサポートをいちばんやわらかい状態にする（→ P. 39）

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

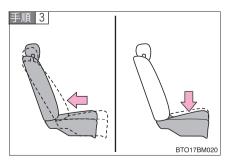
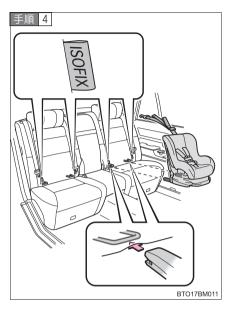
チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

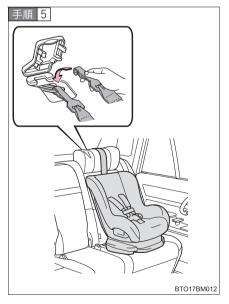
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

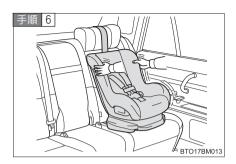
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 44）

シートをいちばん前へ移動させてから（→ P. 39）、次のことを行う

1. トップテザーアンカーのフタを開ける
2. カバーをめくり、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、背もたれの下部の奥にあります。

シートをいちばんうしろへ移動させてから（→ P. 39）、シートクッションをいちばん下まで下げる（→ P. 39）

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

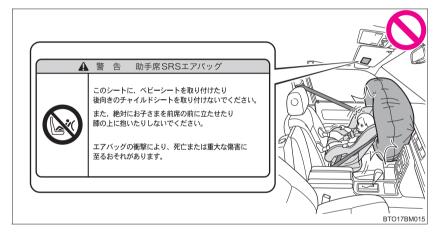
●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

BTO17BM014

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

BTO17BM015

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

BTO17BM016

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

2 運転するときに

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 106）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 110、P. 115）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 120）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 110、P. 115）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 120）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 110、P. 115）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 エンジン スイッチを回してエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

⚠警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがありますすみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 307を参照してください。

警告

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 110、P. 115)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

⚠警告

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーにふれないでください。
やけどをするおそれがあります。]
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

注意

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。(→P. 290)

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

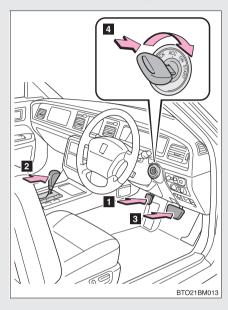
●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンのかけ方

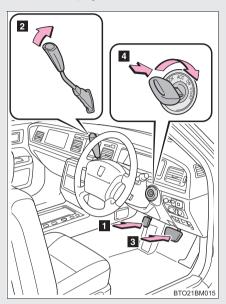
シーケンシャルシフト車

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジン スイッチを“ START ”の位置にまわす

エンジンスイッチを“ START ”にまわしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を保持します。
エンジンが始動するまで最大３０秒間スターターが回転します。

コラムシフト車

BTO21BM015

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

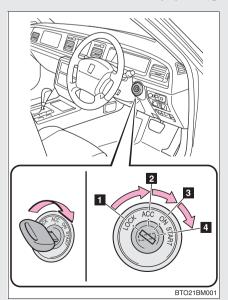
2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジン スイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチを“START”にまわしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を保持します。
エンジンが始動するまで最大３０秒間スターターが回転します。

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

BTO21BM001

1 “LOCK”（OFF）

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

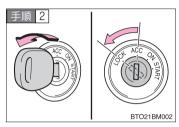
すべての電装品が使用できます。

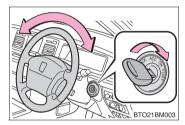
4 “START”

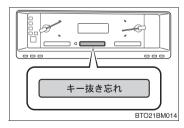
エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告チャイム / キー抜き忘れ警告表示

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴るとともに、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。(→P. 132)

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 65)

■販売店で設定可能な機能

キー抜き忘れ防止チャイムの音量を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 317)

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

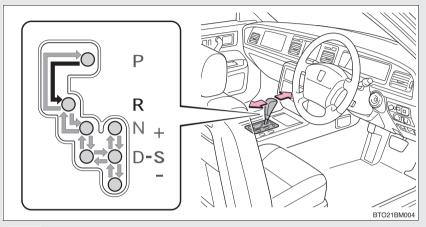
■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

シーケンシャルシフト車

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

← エンジン スイッチが“ ON”の位置で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	シーケンシャルシフト走行※2 (→P. 113)

※1　燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※2　シーケンシャルシフト走行ではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、Dポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択

走行使用条件にあわせて次のモードを選択できます。

1 パワーモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

2 通常走行モード

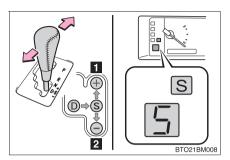
アクセル操作に対して後席の乗り心地を確保したエンジン出力とします。

3 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押すか、他のモードのスイッチを押します。
また、スノーモードで走行後、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にすると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

シーケンシャルシフト走行でのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。

1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、通常は 5 レンジに設定されます。ただし、AI-SHIFT 制御中に S ポジションにすると、AI-SHIFT が解除され、そのとき自動的に選択されていたシフトレンジ（5 レンジ、4 レンジ、3 レンジ）が設定されます。(→P. 114)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトダウン制限警告ブザー（シーケンシャルシフト走行走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■クルーズコントロールを使って走行しているとき

走行時にシフトレバーをDからSへ操作してもエンジンブレーキは効きません。減速が必要なときは、クルーズコントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。（→P. 140）

■シーケンシャルシフト走行に関する自動変速について

1 ～ 5 レンジが選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 297

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。）
アクセルペダルをはなしてもエンジン回転数の高い状態が続くことがありますが、異常ではありません。

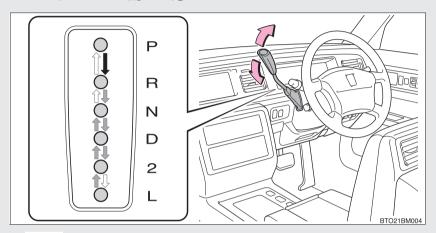
警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

コラムシフト車

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

← (黒)	エンジン スイッチが“ ON ”のときで、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを手前に引いて操作します。
← (灰)	シフトレバーをそのまま操作します。
⇦ (白)	シフトレバーを手前に引いて操作します。

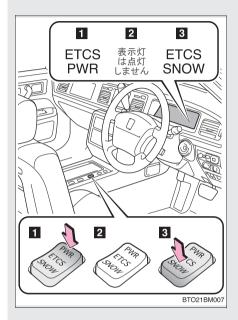
P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	坂道走行
L	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

■ 走行モードの選択

走行使用条件にあわせて次のモードを選択できます。

1 パワーモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

2 通常走行モード

アクセル操作に対して後席の乗り心地を確保したエンジン出力とします。

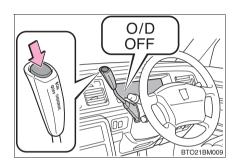
3 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押すか、他のモードのスイッチを押します。
また、スノーモードで走行後、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にすると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

オーバードライブ（O/D）スイッチ

スイッチを ON にしておくとギヤが 6 速まで入り、燃費性能や静粛性を高めます。

OFF にすると 5 速、6 速にはいらなくなり、下り坂での軽いエンジンブレーキや登り坂での不要な変速を防ぐ効果があります。

スイッチを押す

OFF のときオーバードライブ OFF 表示灯が点灯します。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 205

■クルーズコントロールを使って走行しているとき

走行時に O/D スイッチを OFF に操作してもエンジンブレーキは効きません。減速が必要なときは、クルーズコントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。（→P. 140）

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
アクセルペダルをはなしてもエンジン回転数の高い状態が続くことがありますが、異常ではありません。

警告

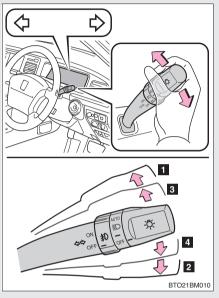
■**すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■**シフトレバーの操作について**

シフトレバーの動かし方（→P. 115）の の操作はシフトレバーを手前に引かないで操作してください。いつもレバーを手前に引いて操作していると意に反して P、R または L に入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

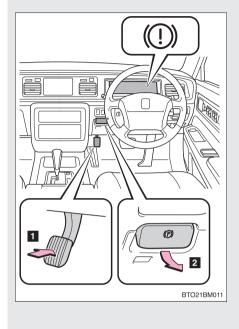
知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

右足でブレーキペダルを踏み込みながら、解除レバーを引きます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

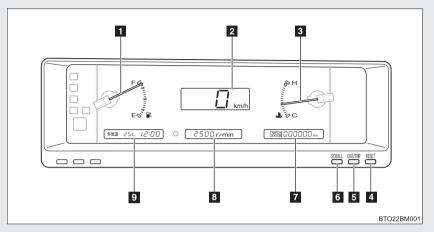
「寒冷時の運転」(→P. 151) の記載を参照してください。

警告

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn icon] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

計器類

シーケンシャルシフト車

エンジン スイッチを“ON”にするとメーターが点灯します。

1 燃料計

燃料残量を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

4 トリップメーターリセットボタン

トリップメーター A、トリップメーター B のうち 0 にしたいほうを表示させ、リセットボタンを表示が 0 になるまで押し続けます。

5 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター A ／トリップメーター B の切りかえができます。

6 SCROLL スイッチ

車の状態をチェックします。

7 オドメーター／トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

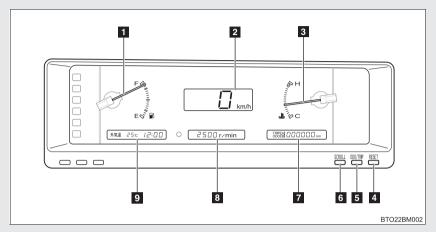
8 マルチインフォメーションディスプレイ

P.132

9 外気温度表示／時刻表示

エンジン スイッチが ON のとき、外気温度を表示します。

・ 時刻表示 →P.208

コラムシフト車

エンジン スイッチを“ON”にするとメーターが点灯します。

1 燃料計

燃料残量を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

4 トリップメーターリセットボタン

トリップメーター A、トリップメーター B のうち 0 にしたいほうを表示させ、リセットボタンを表示が 0 になるまで押し続けます。

5 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター A ／トリップメーター B の切りかえができます。

6 SCROLL スイッチ

車の状態をチェックします。

7 オドメーター／トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

8 マルチインフォメーションディスプレイ

P.132

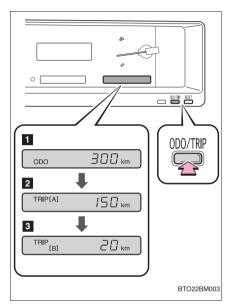
9 外気温度表示／時刻表示

エンジン スイッチが ON のとき、外気温度を表示します。

・ 時刻表示 →P.208

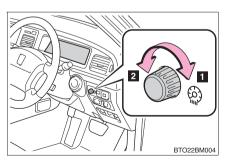
オドメーター／トリップメーターＡ／トリップメーターＢの切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

BTO22BM003

1 オドメーター
2 トリップメーターＡ
3 トリップメーターＢ

メーター明るさ調整ダイヤル

ダイヤルを回すことでメーター照明の明るさを調整できます。

BTO22BM004

1 明
2 暗

知識

■メーターの明るさの調整について

次のときメーター照明等の明るさを調整できます。

- エンジン スイッチが“ON”でライトスイッチが ON のとき
- エンジン スイッチが“ON”でライトスイッチが OFF のとき（この場合、メーター照明以外は点灯しません。）
- エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”でライトスイッチが ON のとき（この場合、メーター照明は点灯しません。）

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度が最大状態では、ライトスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行 (約 20km/h 以下) のとき
- 外気温度が急激に変化したとき (車庫、トンネルの出入り口付近など)
- 外気温の測定が正しく行われないときは「外気温　℃」または、「外気温ーー℃」と表示されることがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.304）

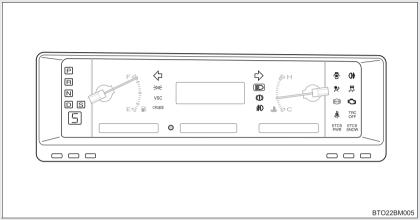
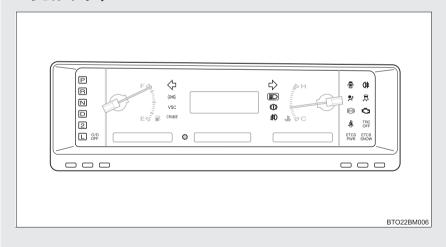
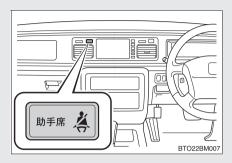
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

シーケンシャルシフト車

BTO22BM005

コラムシフト車

BTO22BM006

センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P.119)

ヘッドライト
上向き表示灯(→P.133)

車幅灯表示灯(→P.133)

フロントフォグライト
表示灯(→P.135)

リヤフォグライト表示灯*
(→P.135)

※
スリップ表示灯
(→P.145)

※
TRC OFF 表示灯
(→P.146)

CRUISE
クルーズコントロール
表示灯(→P.140)

ETCS PWR
ETCS PWR 表示灯
(→P.112、P.116)

ETCS SNOW
ETCS SNOW 表示灯
(→P.112、P.116)

シーケンシャルシフトマチック表示灯*
(→P.113)

シフトレンジ表示*
(→P.113)

オーバードライブ OFF 表示灯*
(→P.117)

※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P.275)

※ ※ ※ ※ ※

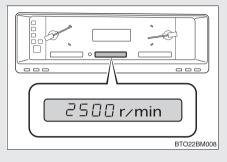
※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、次のような情報を表示します。

- エンジン回転数表示

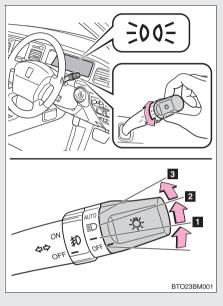
  エンジン回転数のデータが正しく受信できないときは「－－－r ／ min」と表示されます。

- キー抜き忘れ警告表示（→P.108）
- タイヤセット表示（→P.225）
- 警告メッセージ（→P.278）

  各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

ライトスイッチ

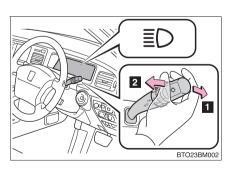
自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

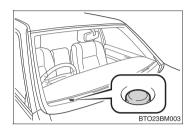
ハイビームにする

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

エンジン スイッチを“ ACC”または“ LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。
再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ON”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 318）

注意

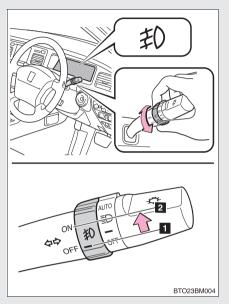
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

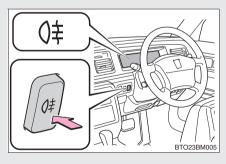
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグ

BTO23BM004

1 消灯する

2 点灯する

リヤフォグライト（リヤフォグライト装着車）

BTO23BM005

スイッチを押す

リヤフォグライト点灯中に再度スイッチを押すと、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

●ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグライト装着車のリヤフォグライトは、フロントフォグライトまたはヘッドライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

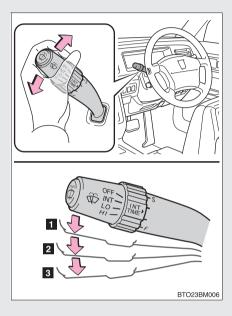
●リヤフォグライトは、後続車に追突されるのを防ぐため、自分の車の存在を知らせる赤色灯です。

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

●視界が悪いときでも、市街地走行などにおいて後続車の迷惑になる場合は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

“ INT” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）

4 間欠ワイパーの作動頻度（減）

5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに１回作動します。）

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■間欠時間制御

レバーが間欠作動のとき、車速に応じてワイパーが作動します。(車速が速くなると間欠時間が短くなります。)

■停車時作動切りかえ

レバーが低速作動のとき、走行中は低速作動を行い停車すると間欠作動に切りかわります

●ツマミが「F」のときは、停車しても間欠作動にはなりません

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■販売店で設定可能な機能

ワイパー停止位置のセミコンシールド状態への変更や、液だれ防止機能・停車時作動切りかえの解除をするように変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 318)

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

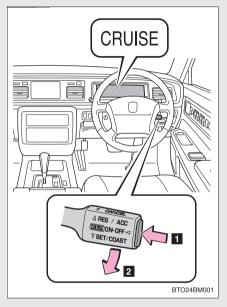
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

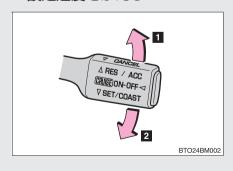
クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

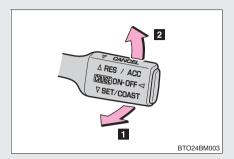
2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

■ 設定速度をかえる

1 増速

2 減速

希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。ただし、車速が約40km/h未満の場合は復帰しません。

知識

■設定条件について

- シフトレバーがDまたはSの4～6レンジ(シーケンシャルシフト車)、Dレンジ（コラムシフト車）のとき設定できます。
- 車速は約 40 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h 未満になった
- VSC が働いた

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況に合わせて車高を選択できます。

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。

「高め」モード

「高め」モード選択時スイッチの表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと OFF になります。

車速が約 80km/h 以上のときは、車高は「高め」には切りかわりません。

知識

■H ∞（インフィニティ）TEMS 機能について

路面の凹凸やハンドル操作などによる車両の挙動変化に対し、ショックアブソーバーの減衰力を４輪独立で最適に制御し、ソフトな乗り心地と優れた操縦安定性を両立させています。

■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音について

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや「高め」モードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

⚠警告

■エアサスペンションについて

次の状況ではエンジンを停止してください。

●縁石などに乗り上げて駐車するとき

●脱輪したとき

●ジャッキアップするとき

●レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

エンジン スイッチを“ ON ”のままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

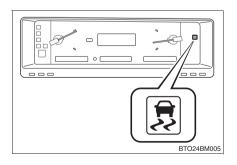
急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

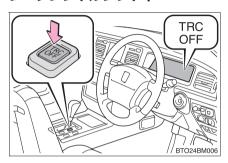
すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

VSC、TRC が作動しているとき

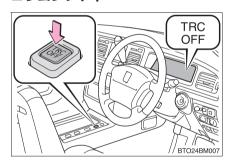
車両が横すべりしそうになったとき、後輪が空転したとき、VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、TRC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

シーケンシャルシフト車

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

コラムシフト車

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC の自動復帰について

TRC を作動停止したあと、エンジン スイッチを" ACC "または" LOCK "にすると自動的に TRC は作動復帰状態にもどります。

警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

■TRC を OFF にするときは

TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能を作動停止状態にしないでください。
TRC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 315）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ・運転席足元
  - ・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

警告

- トランクルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 315）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※：輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ワイパー停止位置の切りかえ

積雪や凍結のおそれがある場合は､あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 後 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・ 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■冬用タイヤやタイヤチェーンを取り付けるときは

電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、必ずエンジンを停止してください。

注意

■タイヤチェーンの使用について

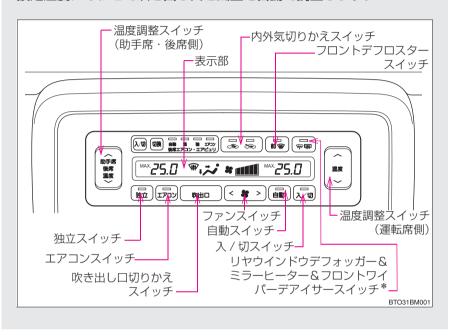
- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
  トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

フロントオートエアコン

前席、または後席から別々に操作できます。後席からの操作については別冊「後席用取扱書」をご覧ください。
設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。（ 助手席の設定温度が運転席と同じになります ）

手順 1 ［自動］ を押す

エアコンが作動し吹き出し口と風量を自動で調整します。

連動モード時は ［独立］ の作動表示灯が消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 2 設定温度を上げるときは運転席の を、

下げるときは ﹀ を押す

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 [自動] を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 [独立] を押す (作動表示灯が点灯)

または、助手席の を押す

手順 3 運転席側は 、助手席側は を押し、温度を調整する

再び [独立] を押すと、作動表示灯が消灯し連動モードになります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

エアコン を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は

、助手席側は

を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の

を押すと独立モードに切りかわります。

■ 風量をかえるには

風量切りかえスイッチの > （増）か < （減）を押す

風量は5段階に調整できます。

送風を止めるときは 入/切 を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

吹出口 を押す

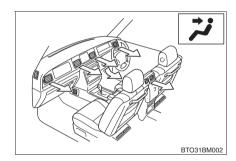
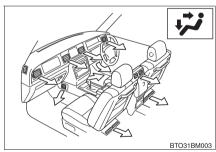
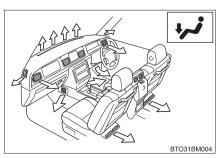
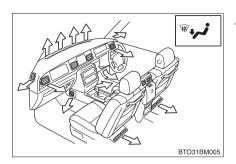
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

BTO31BM002

上半身に送風

BTO31BM003

上半身と足元に送風

BTO31BM004

足元に送風

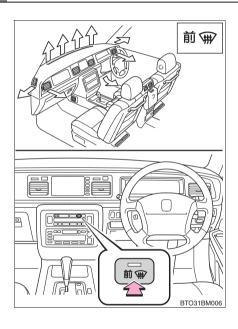
足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

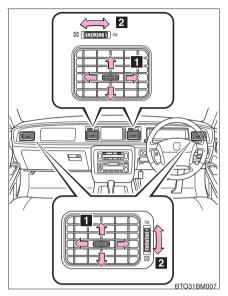
を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

作動表示灯で作動状態を表示します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

前 を押す

エアコンが作動します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■**オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

● 自動 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■**内気循環について**

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■**内外気切りかえについて**

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

[エアコン] を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■フロントデフロスタースイッチについて

●外気温が低いときに、フロントデフロスタースイッチを押すと、外気導入モードになります。

・内気循環モードにもどしたいときは、内外気切りかえスイッチを押すと内気循環モードにもどりますが、ガラスが曇りやすくなるため、できるだけ外気導入モードにしてください。

●バッテリーを脱着したあとにエンジン スイッチを“ ON”の位置にしたとき、フロントデフロスタースイッチの表示灯が点滅し、モーターの作動音がすることがありますが、これは正常あな作動であり、異常ではありません。

⚠警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは

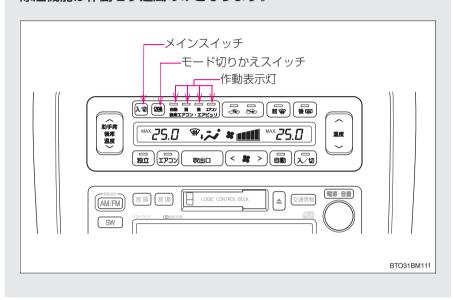
[後] を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。
- エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。
  点滅がさらに続く場合は、スイッチを OFF にしてとトヨタ販売店で点検を受けてください。

リヤエアコン＆エアピュリファイヤー（空気清浄器）

前席、または後席から別々に操作できます。後席からの操作については別冊「後席用取扱書」をご覧ください。
ただし、フロントエアコンのエアコンスイッチが停止のときは、冷房、除湿機能は作動せず送風のみとなります。

エアピュリファイヤー付リヤエアコンを作動させるには

入/切 を押す

スイッチを押すたびにエアピュリファイヤー付リヤエアコンのON・OFF が切りかわります。

エアピュリファイヤー付リヤエアコンの作動状態を切りかえるには

切換 を押す

スイッチを押すごとにエアピュリファイヤー付リヤエアコンの作動が切りかわります。

■ フロントエアコンのエアコンスイッチが ON のとき

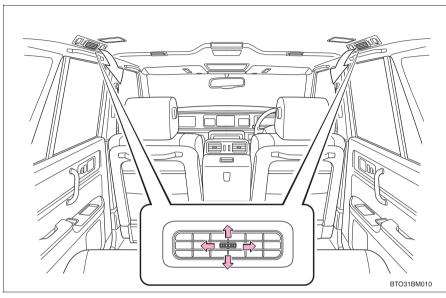
切換 を押すごとに、「自動→弱→弱 , エアコン→強 , エアコン→自動」の順にモードが切りかわります。

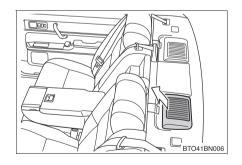
<table>
<tr><th></th><th>リヤエアコン</th><th>エアピュリファイヤー</th><th>風量</th></tr>
<tr><td>自動</td><td colspan="3">自動調整</td></tr>
<tr><td>弱</td><td>停止</td><td rowspan="3">作動</td><td rowspan="2">弱</td></tr>
<tr><td>弱 , エアコン</td><td rowspan="2">作動</td></tr>
<tr><td>強 , エアコン</td><td>強</td></tr>
</table>

■ フロントエアコンのエアコンスイッチが OFF のとき

切換 を押すごとに、「自動→弱→強→自動」の順にモードが切りかわります。

<table>
<tr><th></th><th>リヤエアコン</th><th>エアピュリファイヤー</th><th>風量</th></tr>
<tr><td>自動</td><td rowspan="3">停止</td><td colspan="2">自動調整</td></tr>
<tr><td>弱</td><td rowspan="2">作動</td><td>弱</td></tr>
<tr><td>強</td><td>強</td></tr>
</table>

風向きの調整（リヤエアコン）

ノブまたは吹き出し口本体を動かして調整します

エアピュリファイヤーの吹き出し口

知識

■フィルターについて

エアピュリファイヤーにはフィルターが取り付けられています。交換の際にはトヨタ販売店にご相談ください。

交換の目安：15000km ごと（ただし、1 年をこえないこと）

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

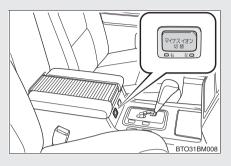
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

■故障を防ぐために

必ずフィルターを装着した状態でエアピュリファイヤーを使用してください。フィルターを装着せずにエアピュリファイヤーを使用すると故障の原因となることがあります。

マイナスイオン発生器

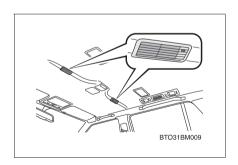
車内の空気改質、快適性向上のため、マイナスイオン発生器が装着されています。

BTO31BM008

作動している吹き出し口の作動表示灯が点灯します。

マイナスイオン発生器の作動状態を切りかえるには

[マイナスイオン 切替] を押すごとに、「OFF → ON（右側・左側）→ ON（右側）→ ON（左側）→ OFF」の順にモードが切りかわります。

マイナスイオンの吹き出し口

BTO31BM009

知識

■作動表示灯について

マイナスイオン発生器を作動させたとき、吹き出し口の作動表示灯の点灯が遅れることがありますが、故障ではありません。

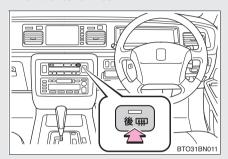
警告

■**マイナスイオン発生器について**

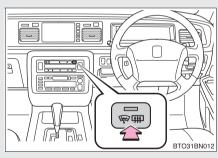
- マイナスイオン発生器は高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 吹き出し口付近にスプレーを噴射したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）&ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。
フロントワイパーデアイサー装着車は、フロントウインドウとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

寒冷地仕様車を除く

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分で自動的に OFF になります。

寒冷地仕様車

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターと、フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON”のとき

■フロントワイパーデアイサーについて

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターを ON にするとフロントワイパーデアイサーも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■フロントワイパーデアイサー作動中の警告（フロントワイパーデアイサー装着車）

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

オーディオ

DVD プレーヤーおよびテレビの操作については、別冊の「エレクトロマルチビジョン取扱書」をご覧ください。

後席でのオーディオ操作については、別冊の「後席用取扱書」をご覧ください。

タイトル	参照ページ
ラジオを聞く	P. 175
CD オートチェンジャーの使い方	P. 178
カセットテープを聞く	P. 187
快適に聞くために	P. 190

知識

■携帯電話の使用

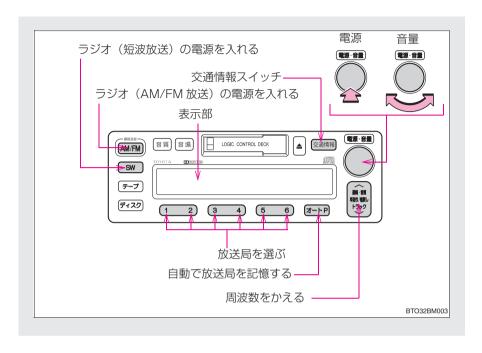
オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえるときがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオを聞く

ラジオを聞く

■ AM/FM 放送を聞く

AM/FM を押す。

表示部に「AM」・「FM」と表示されます。

ラジオを聞いているときに AM/FM を押すと AM・FM の切りかえができます。

■ SW（短絡）放送を聞く

SW を押す。

表示部に選択したバンドが表示されます。

放送局を記憶させる

■ 手動設定

  の ︿（高い周波数）または ﹀（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

“ピッ”と音が鳴るまで押すと、自動で受信可能な周波数を選択します。

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を“ピッ”と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

オートP を“ピッ”と音が鳴るまで押す

受信感度の良い周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。

交通情報を受信する（カセット一体 AM/FM ラジオ）

交通情報 を押す

ネットワーク フォロー（番組追従）機能を作動させるには

ラジオ（AM/FM）の電源が入っているときに、AM/FM を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

作動すると表示部に「番組追従」と表示されます。解除するには再度

AM/FM を“ピッ”と音が鳴るまで押します。

知識

■ネットワーク フォローについて

現在聞いている周波数の放送地域外に移動したとき、その周波数で放送されていた番組が一番良好な状態で受信することができる別の周波数に自動的に切りかわります。

■交通情報について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき、交通情報 を“ピッ”と音が鳴るまで押すと、その周波数を記憶させることができます。

●交通情報を受信しているときは、 ・ 1 〜 6 ・ オートP を操作しても、周波数は切りかわりません。

■SW（短波放送）の放送局について

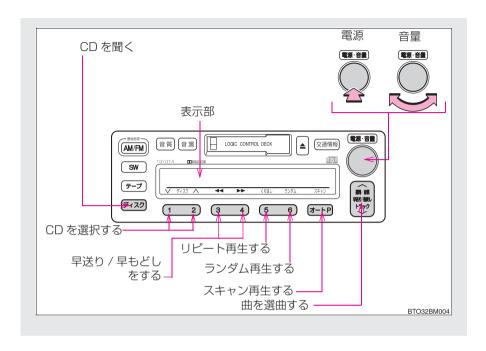
1 〜 6 にあらかじめ放送局が記憶されています。
新たに記憶させることはできません。

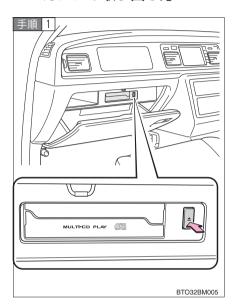
■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 〜 6 に設定されていた放送局が消去されます。

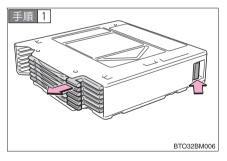
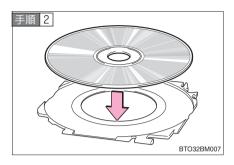
■受信感度について

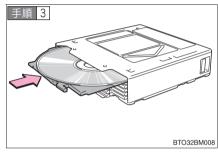
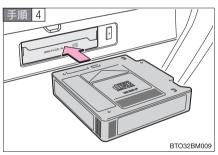
アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

CD オートチェンジャーの使い方

CD を挿入する

■ マガジンの取り出し方

CD オートチェンジャーのイジェクトスイッチを押す

マガジンが自動で押し出されます。

■ マガジンのセットのしかた

レバーを押したままトレイを引き出す

ラベル面を下にして CD をのせる

６枚まで収納できます。

トレイをもとにもどす

マガジンを本体に挿し込む

約３０秒以内にCDのセット状態を自動的に検索します。

曲を選ぶ

 の ︿（次曲）または ﹀（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早送りするには、3 4 の 4(早送り）または 3(早もどし）を 押し続ける

CD を選択する

1 2 の 1 または 2 を 押して選択する

ランダム再生する

■ 同一 CD ランダムモード

6 を押す

表示部に「ランダム」と表示されます。
解除するときは、もう一度 6 を押します。

■ 全 CD ランダムモード

6 を“ピッ”と音が鳴るまで押す

表示部に「D・ランダム」と表示されます。

解除するときは、もう一度 6 を押します。

リピート（くり返し）再生する

■ 同一曲くり返しモード

5 を押す

表示部に「くり返し」と表示されます。

解除するときは、もう一度 5 を押します。

■ 同一 CD くり返しモード

5 を“ピッ”と音が鳴るまで押す

表示部に「D・くり返し」と表示されます。

解除するときは、もう一度 5 を押します。

スキャン再生する

■ 同一 CD スキャンモード

オートP を押すと､全曲のはじめの部分が約 10秒間ずつ再生されます。

表示部に「スキャン」と表示されます。

解除するときは、もう一度 オートP を押します。

■ 全 CD スキャンモード

オートP を“ピッ”と音が鳴るまで押すと、全 CD の 1 曲目のはじめの部分が約 10 秒間ずつ再生されます。

表示部に「D・スキャン」と表示されます。

解除するときは、もう一度 オートP を押します。

知識

■エラー表示

- "Err 1"：CD がよごれているなど読み取りできない
- "Err 2"：マガジンに CD がセットされていない
- "Err 3"：CD オートチェンジャーの異常
- "Err 4"：CD オートチェンジャーの異常
- "WAIT"：CDオートチェンジャーの温度異常時に表示され、自動的にCDオートチェンジャーの機能が停止します。しばらくして CD オートチェンジャーの温度が通常に復帰すると、表示が消えて使用可状態になります。

上記以外でも CD オートチェンジャーの内部を保護するため、異常が生じたときは自動的に CD オートチェンジャーの機能が停止します。この場合、ディスクを押してください。
それでもなお、機能が停止するときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■CD をマガジンにセットしたままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

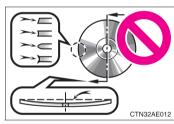
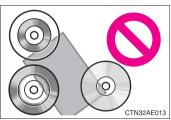
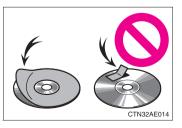
■8cmCD を使用するときは

トヨタ純正 8cmCD トレイが必要です。
8cmCD アダプターやトヨタ純正品以外のトレイを使用すると、CD オートチェンジャーの故障の原因になります。
トヨタ純正 8cmCD トレイについては、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■使用できない CD、アダプター

次のような CD や 8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

●直径12cmまたは8cm の円形以外のCD

●低品質または変形している CD

●記録部分が透明または半透明の CD

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

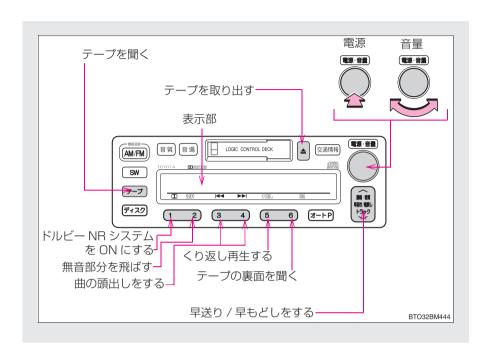
●CD 挿入口にマガジン以外のものを入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

●変形したディスクを使用しない

カセットプレーヤーの使い方

テープを挿入する

挿入口に合わせた向きでテープを挿入する

テープを取り出す

⏏ を押してテープを取り出す

テープを聞く

テープが入っている場合は、テープ を押す

早送り／巻きもどしをする

の ︿（早送り）または ﹀（巻きもどし）

解除するときは、もう一度 の ︿（早送り）または ﹀（巻きもどし）を押すか、テープ を押します。

曲の頭出しをする

3 4 の 3（前へ）または 4（うしろへ）

解除するときは、テープ を押します。

テープの再生面を切りかえる

6 を押す

A 面から B 面、または B 面から A 面と再生面が切りかわります。

くり返し再生をする

5 を押す

同じ曲がくり返し再生されます。

表示部に「くり返し」と表示されます。

解除するときは、もう一度 5 を押します。

無音部分を早送りする

2 を押す

無音部分が自動的に早送りされます。

表示部に「空送り」と表示されます。

解除するときは、もう一度 2 を押します。

ドルビー NR システムを ON にする

ドルビー（B）NR で録音されたテープを再生するときに、1 を押す

テープノイズが約 10dB 低減します。

表示部に「DD」と表示されます。

解除するときは、もう一度 1 を押します。

知識

■ドルビー NR システムについて

ドルビーノイズリダクションは「ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーション」からの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

■クリーニングについて

ヘッド周辺部（ヘッド、キャプスタン、ピンチローラー）は汚れやすいので、月に一度はクリーニングテープでクリーニングしてください。

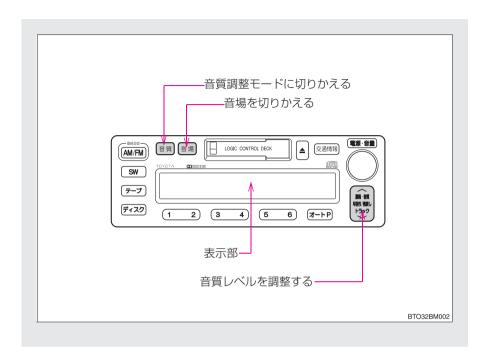
注意

■カセットプレーヤー、テープについて

プレーヤーの故障やテープの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

- ラベルがはがれかけていたり、ネームテープが貼ってあるテープは使用しない
- 90 分をこえるテープは使用しない
- テープは直射日光を避けて保管する
- プレーヤーにオイルを塗ったり、金属や磁気をテープ挿入口に入れない

快適に聞くために

音質調整モードに切りかえる
音場を切りかえる
表示部
音質レベルを調整する
BTO32BM002

音質を調整するには

手順 1 音質 を押して、調整したいモードを選択します。

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

BAS（低音）→ MId（中音）→ TRE（高音）→ BAS（低音）

を押して、音質レベルを調整します。

強めにするには ︿、弱めにするには ﹀ を押して調整します。

表示部に選択されたレベルが表示されます。

音質モード	表示	レベル	"Λ" 側を押す	"V" 側を押す
低音	BAS	-5 ～ 5	強	弱
中音	MId	-5 ～ 5		
高音	TRE	-5 ～ 5		

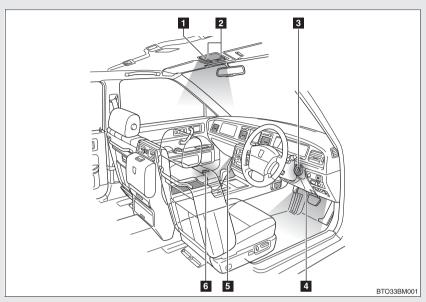
音場を調整するには

音場 を押すごとにモードが切りかわります。

全席モード → 前席モード → 前席優先モード → 後席優先モード → 全席モード

表示部に選択されたモードが表示されます。

音場モード	表示	特徴
全席モード		後席で「心地良く」音楽を楽しむことが可能なように、後席を最優先して音作りしたモード
前席モード		前席でのみ交通情報等を受聴し、後席は仕事や休息ができるようにしたモード（フロント側スピーカーのみ使用）
前席優先モード		運転席を最優先して音作りしたモード
後席優先モード		後席を最優先して音作りしたモード

室内灯一覧

1 フロント室内灯（→P. 193）

2 フロントパーソナルライト（→P. 193）

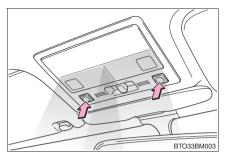
3 エンジン スイッチ照明

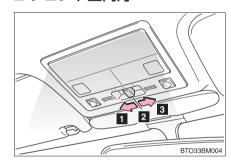
4 運転席足元照明

5 助手席足元照明

6 カーテシライト

フロントパーソナルライト、フロント室内灯

■ フロントパーソナルライト

ライトを点灯・消灯する

■ フロント室内灯

1 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

2 ライトを消灯する

3 ライトを点灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

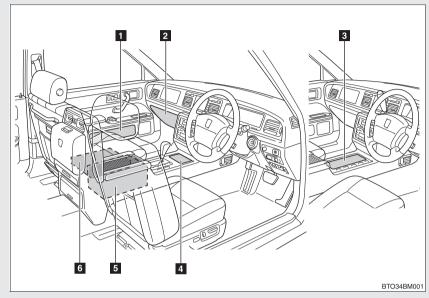
フロント室内灯のスイッチがドアポジションのときは、ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

■販売店で設定可能な機能

キャンセルや室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 318）

収納装備一覧

1 フロントドアポケット
2 グローブボックス
3 電動ホップアップ収納ボックス（コラムシフト車）
4 カップホルダー（シーケンシャルシフト車）
5 コンソールボックス
6 シートアンダートレイ

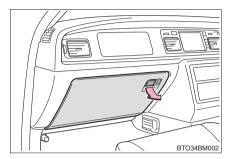
⚠ 警告

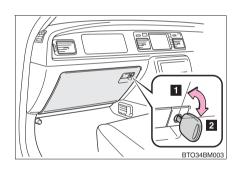
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

■ 開ける

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

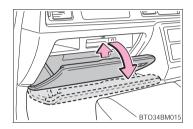
■ 解錠・施錠する

1 解錠

2 施錠

※：サブキーは使用できません

知識

■2 段階（半開・全開）に開けることができます。

大きい物の出し入れやエアコンフィルターの脱着などは、全開状態にて行ってください。

半開状態からフタを少しもどしてから開ける

■グローブボックスライトについて

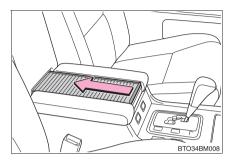
車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

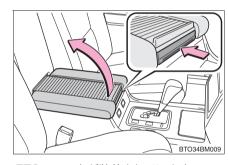
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロントコンソールボックス

■ 上部ボックス

フタをスライドする

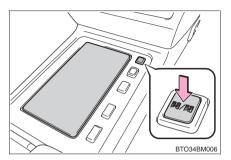
■ 下部ボックス

レバーを押しながら開く

※ ETC ユニットが装着されています。

⚠ 警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

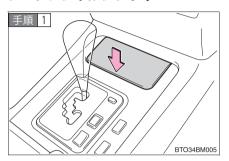
電動ホップアップ収納ボックス（コラムシフト車）

スイッチを押す

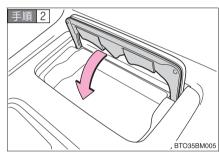
フタを閉じるにはスイッチをもう一度押します。

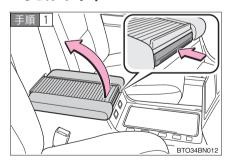
⚠ 注意

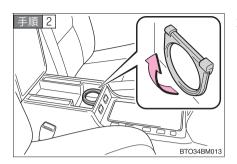
■故障を防ぐために

スイッチを押してもフタが開かない場合はフタの左側を押すと少しフタが開き、手で開けることができます。
ただし、この手動でフタを開く操作は緊急時のみに限って行い、通常は行わないでください。
むやみに行うと故障の原因となります。

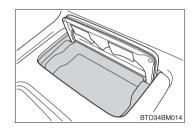
カップホルダー

シーケンシャルシフト車

フタを押して開ける

ホルダーを倒す

コラムシフト車

フロントコンソールを開ける

レバーを押しながら開けます。

ホルダーを引き起こす

知識

■小物入れとして使用する（シーケンシャルシフト車）

ホルダーを倒さなければ、小物入れとしても使用できます。

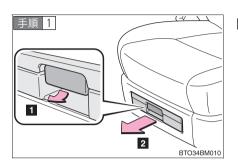
警告

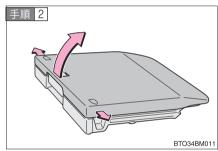
■収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

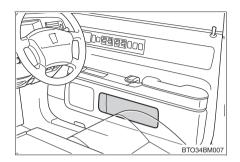
シートアンダートレイ（助手席）

レバーを引いてトレイを引き出す

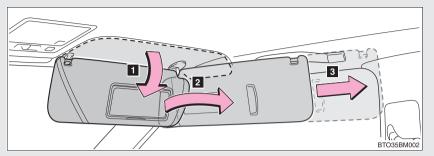
走行するときは、必ずシートアンダートレイが固定されていることを確認してください。

フタを開ける

警告

■シートアンダートレイ（助手席）について

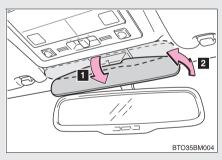
シートアンダートレイ以外の場所にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
また、調整機構の故障の原因になります。

フロントドアポケット

サンバイザー

■ 運転席・助手席

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

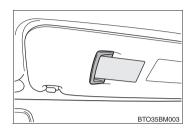
2 側方をさえぎるには、下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

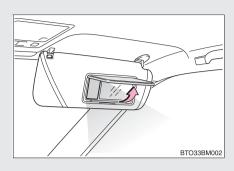
3 後方へスライドする

■ センター

1 バイザーを下ろす

2 角度を調整する

知識

■カードホルダー（運転席側）

チケットなどを収納することができます。

バニティミラー

カバーを開ける

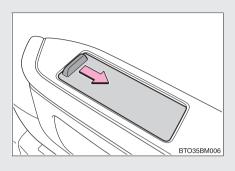
カバーを開けるとライトが点灯します。

サンバイザーをスライドさせているときは、ライトは点灯しません。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

灰皿

フタをスライドして開ける

取りはずすときは灰皿本体を持って取りはずします。

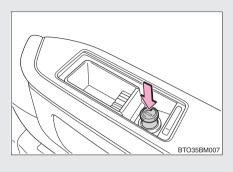
警告

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

フタをスライドして開けて、シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

警告

■やけどを防ぐために

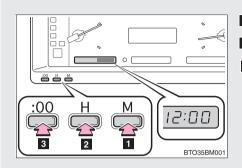
●シガレットライターの金属部分にふれないでください。

●シガレットライターを押さえたままにしないでください。

●トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用後について

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

時計

1 “ 分 ” を調整する

2 “ 時 ” を調整する

3 “ 分 ” を 00 にする※

※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

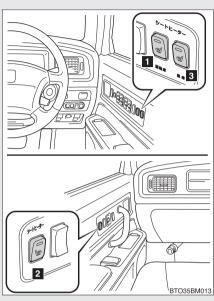
エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

シートヒーター

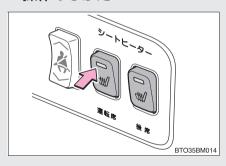
運転席・助手席・後席をそれぞれ暖めることができます。

BTO35BM013

1 運転席スイッチ

2 助手席スイッチ

3 後席スイッチ

■ 操作のしかた

BTO35BM014

スイッチの上面を押す

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。
シートが暖まると自動的に「弱」になります。

もう一度スイッチを押すとOFFになります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ON”のとき

■リヤシートヒーターについて

リヤシートヒーターは、コンフォータブル・エアシート（→P. 211）と同時に使用することはできません。

警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

注意

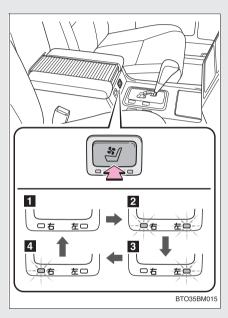
■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは使用しないでください。

コンフォータブル・エアシート（後席）

リヤシート表面を冷やすことができます。
前席からは ON・OFF の切りかえができます。強弱調整などは、後席のツマミにより行います。
別冊の「後席用取扱書」をご覧ください。

スイッチを押す

スイッチを押すごとに作動が切りかわります。

1 OFF
2 ON（左側・右側）
3 ON（左側）
4 ON（右側）

知識

■作動条件

●エンジン スイッチが“ ON ”のとき

●リヤシートヒーター（→P. 209）と同時に使用することはできません。

■フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

■お手入れについて

→P. 221

警告

■**冷やしすぎを防ぐために**

●冷やしすぎのおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

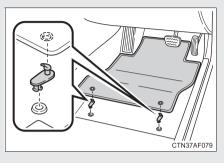
■**コンフォータブル・エアシートの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときは使用しないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

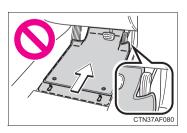
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

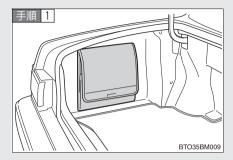
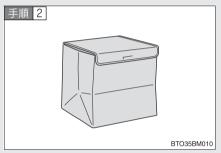
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

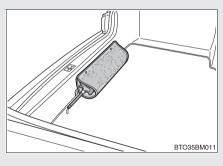
■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

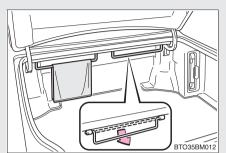
トランク内装備

■ 収納ケース

トランク内左側にあります。

広げて使用します。

使用しないときは折りたためます。

取りはずすこともできます。

■ 毛バタキケース

毛バタキを収納できます。

■ ウエスハンガー

使用するときはハンガーをクリップからはずし、手前に降ろします。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 車両前側から洗車してください。ドアミラー装着車は、ドアミラーを格納してください。また走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびモールディング

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。強力な化学洗剤は使用しないでください。塗料に使用されているのと同様に刺激の少ない洗剤やワックスを使用してください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

ミラーの親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 56）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいな柔らかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。
- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

● ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して本革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→P. 68）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清浄するとき使用する溶剤について

●変色･シミ･塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

・艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製･プラスチック製･ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはり付くおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず､熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

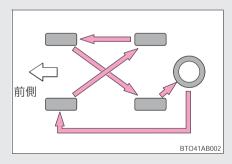
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

■ タイヤ空気圧警報システム

タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

走行速度、重量変化などでタイヤ空気圧を変更した場合は、初期化してください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

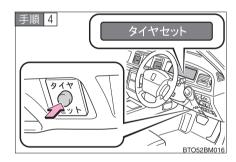
■ 初期化のしかた

手順 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

手順 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→P. 226）

タイヤ空気圧の調整は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

手順 3 エンジン スイッチを“ ON ”にする

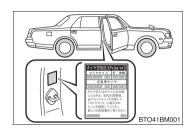
手順 4

タイヤ空気圧を設定する

車を停車した状態で、マルチインフォメーションディスプレイに「タイヤセット」と表示されるまで、スイッチを押し続けます。

手順 5 しばらく走行します。

しばらく走行するとシステムがタイヤ空気圧の正常な状態を検知し、初期調整が完了して作動可能となります。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm²)]
	前後輪
225/60R 16 98H	200（2.0）

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■正しくタイヤ空気圧警報システムを初期化するには

空気圧を必ず指定された基準圧にして初期化してください。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、トヨタ販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が点滅せず、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出ない場合（走行中は初期化を受け付けません）

警告

■点検・交換時の警告

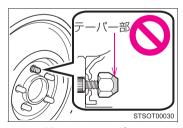
必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

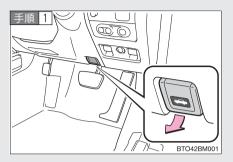
■タイヤ空気圧警報システムについて

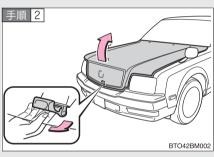
- 指定空気圧に調整せずにセットスイッチによる初期調整を行うと、正常状態のタイヤ空気圧を検知できないため、タイヤ空気圧が低下しても警告が表示されなかったり、タイヤ空気圧が正常であるのに警告が表示されたりすることがあります。
- 走行中にセットスイッチを押し続けても初期調整は行われません。
- セットスイッチを押し続けてもマルチインフォメーションディスプレイに タイヤセット が表示されないときは、システムの異常が考えられます。
トヨタ販売店で点検を受けてください。
- タイヤセットスイッチのとなりに、同じ形状のワイヤレスドアロックのブザーON/OFF スイッチ（→P. 27）があるため、押し間違えないよう注意してください。
- タイヤ空気圧警報システムに電気的な異常が発生すると、警告表示（→P. 279）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに タイヤ圧システム の警告が表示されます。
警告が表示されても、走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

⚠ 警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けがを防ぐために**

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを"LOCK"にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

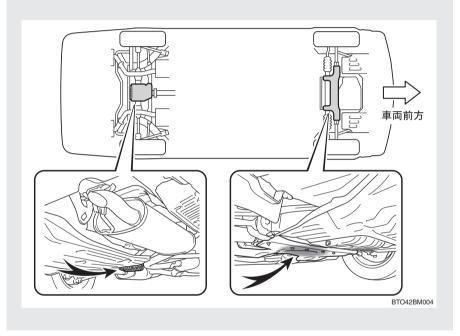
ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

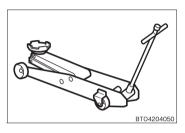
■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ●ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。
また、フロント側を持ち上げるときは、傷つき防止のためガレージジャッキと車両の間に厚手の布等を挟んでください。

警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。

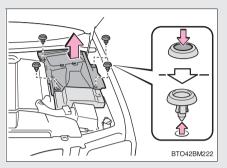
●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

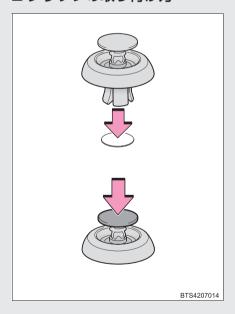
●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

エンジンルームカバー

ヒューズの交換や日常点検などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

クリップを取りはずし、カバーを取りはずす

■ クリップの取り付け方

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジン スイッチを“LOCK ”にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取りはずすときは

クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

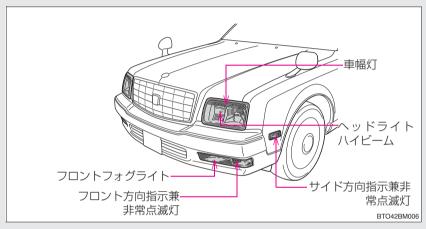
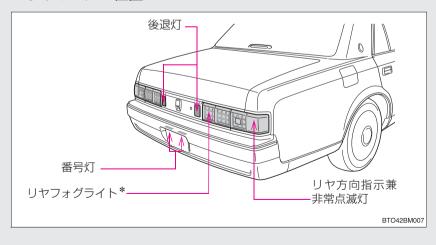
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

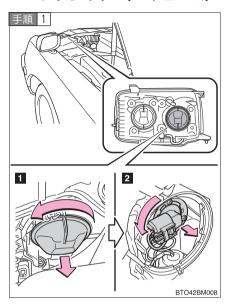
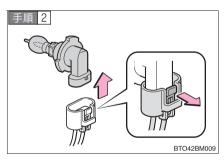
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

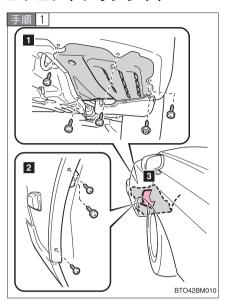
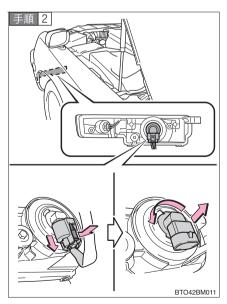
切れた電球の W(ワット) 数を確かめてください。(→P. 315)

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

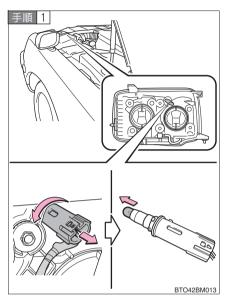
電球交換のしかた

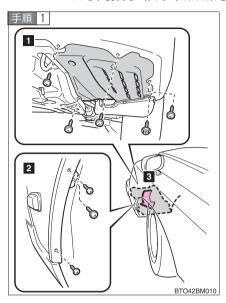
■ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1 ボンネットを開け、カバーをはずし、コネクターをはずす

手順 2 コネクターから電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト

ハンドルをいっぱいまで右にまわしてから、ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずしてから、電球を取りはずす

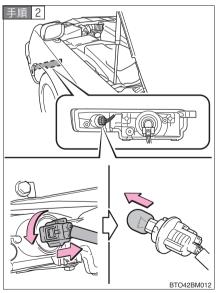
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 車幅灯

ボンネットを開け、ソケットを取りはずし、ソケットから電球を引き抜く

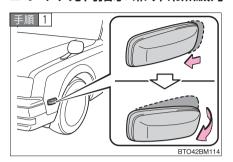
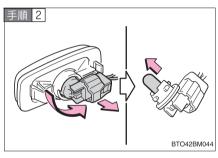
手順 2 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

手順 1

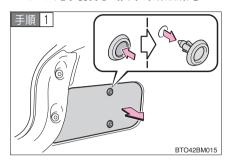
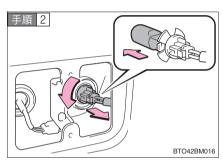
ハンドルをいっぱいまで右にまわしてから、ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

手順 2

ソケットを取りはずし、ソケットから電球を引き抜く

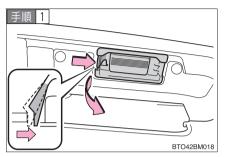
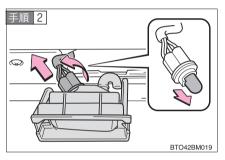
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示 兼 非常点滅灯

ライト本体を車両前方にスライドさせて取りはずす

ソケットを取りはずし、ソケットから電球を引き抜く

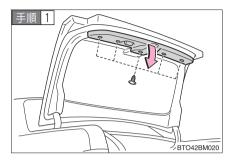
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずし、ソケットから電球を引き抜く

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

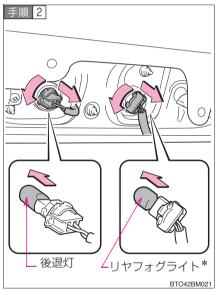
■ 番号灯

ツメを押しながら、本体を車両から取りはずす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯、リヤフォグライト*

トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをはずす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライトロービーム（ディスチャージバルブ）
- ● 制動灯
- ● 尾灯
- ● ハイマウントストップライト

知識

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ライトについて

尾灯･制動灯･ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**電球を交換するときは**

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■**ディスチャージヘッドライトについて**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

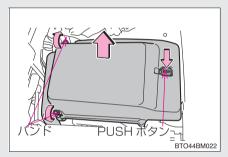
ヒューズの点検、交換

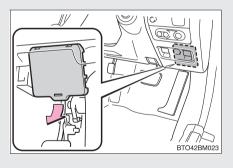
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

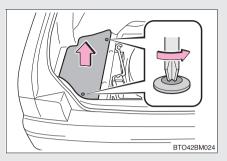
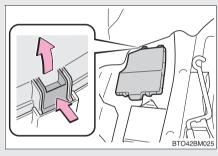
手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

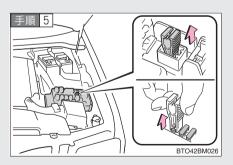
手順 2 エンジンルーム内ヒューズボックスを開けるときは、バッテリーカバーをはずす（→P. 234）

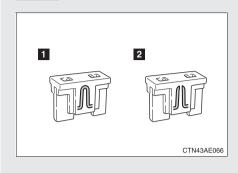
手順 3 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム内

エンジンルームカバーをはずしてから（→P. 234）、バンドを 2 カ所はずし、カバー上の「PUSH」ボタンを押してヒューズボックスカバーをはずす

運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす

トランク内

1 トランクを開け、トランクマットを取りはずしてから、クリップをはずし、ボードを取りはずす

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

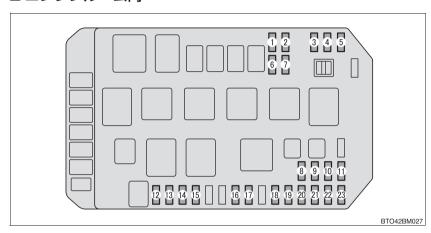
手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 250)で確認する

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

手順 6 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

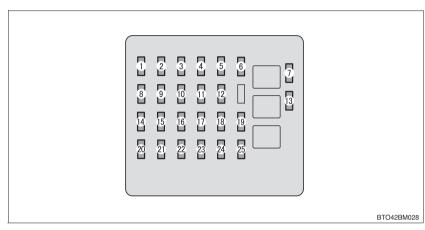
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

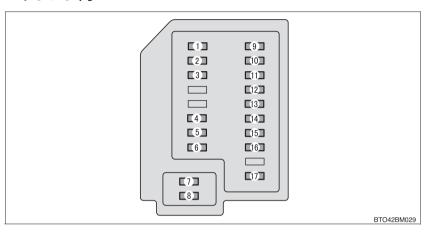
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム内

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	インジェクター LH	15 A	インジェクター、イグナイター、IG コイル
2	インジェクター RH	15 A	インジェクター、イグナイター、IG コイル
3	SPARE	―	スペア
4	SPARE	―	スペア
5	SPARE	―	スペア
6	AMP	25 A	エレクトロマルチビジョン
7	ラジオ NO.1	20 A	オーディオ
8	ハザード	15 A	非常点滅灯
9	F/PMP	20 A	フューエルポンプ
10	ドーム	7.5 A	室内照明類
11	エアコン	7.5 A	エアコン
12	ホーン	10 A	警音器
13	スロットル R	10 A	電子制御スロットルモーター（右側）
14	H-LP R LWR	15 A	ヘッドライト下向き（右側）
15	H-LP L LWR	15 A	ヘッドライト下向き（左側）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	EFI NO.2L	7.5 A	O_2 センサー、エアフロメーター
17	MIR HTR	15 A	ミラーヒーター
18	IG2	25 A	点火系
19	H-LP UPR	20 A	ヘッドライト上向き
20	EFI	20 A	EFI コンピューター
21	スロットル L	10 A	電子制御スロットルモーター（左側）
22	MPX-B	7.5 A	ボディ ECU、ドア ECU、メーター
23	エレクトロニクス B	7.5 A	メーター、電動チルト＆テレスコピックステアリング ECU, ワイヤレスドアロック ECU

■ 運転席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ターン	7.5 A	コーナリングライト、サイド方向指示灯、方向指示表示灯、フロント方向指示灯、リヤ方向指示灯
2	メータ	7.5 A	メーター、SRS エアバッグインジケーター
3	ストップランプ S/W	7.5 A	ストップランプスイッチ
4	ラジオ NO.3	10 A	オーディオ
5	パネル	7.5A	メーター照明、メーター照度調整、各スイッチ照明
6	フロントシートヒータ	15 A	フロントシートヒーター
7	リヤシートヒータ LH	20 A	リヤシートヒーター、コンフォータブル・エアシート（左）
8	ワイパ	20 A	ワイパー＆ウォッシャー
9	パワー IG	7.5 A	VSC ECU、パワステ ECU、オルタネーター
10	フロントドア LH	20 A	フロントドア ECU（左）、パワーウインドウ（左）、電気式ドアロック（左）、カーテシライト（左）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	チルト&テレスコ	30 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
12	スタータ	7.5 A	ニュートラルスタートスイッチ
13	リヤシートヒータ RH	20 A	リヤシートヒーター、コンフォータブル・エアシート（右）
14	ヒータ	10 A	エアコンマグネットクラッチ
15	エレクトロニクスー IG	7.5 A	シフトロック、フロントドア ECU、ボデー ECU, マルティメディア ECU、電動チルト&テレスコピックステアリング ECU、レオスタット（メーター等照度調整スイッチ）
16	ラジオ NO.2	10 A	電動リモコンミラー、オーディオ、ボデー ECU、TELBOX
17	フロントシート RH	30 A	運転席パワーシート、アジャスタブルショルダーアンカー
18	テールランプ	7.5 A	車幅灯、フェンダーマーカーランプ
19	エアサスペンション	20 A	電子制御エアサスペンション
20	FR フォグ	15 A	フロントフォグライト
21	イグニッション	7.5 A	EFI コンピューター、SRS エアバッグ ECU、助手席乗員検知システム ECU
22	フロントライタ	15 A	フロントシガレットライター、SRS エアバッグ ECU、助手席乗員検知システム ECU
23	リヤライタ	15A	リヤシガレットライター、エアコン ECU
24	エンジン NO.2 RH	7.5 A	O_2 センサー、エアフロメーター
25	フロントドア RH	20 A	フロントドア ECU（右）、パワーウインドウ（右）、電気式ドアロック（右）、カーテシライト（右）

■ トランク内

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ストップ&テイル 4	10 A	制動灯、リヤフォグライト、尾灯、後退灯、ハイマウントストップライト
2	ストップ&テイル 1	10 A	制動灯、尾灯、番号灯
3	リヤドア RH	20 A	リヤドアクローザー（右）、ドア ECU（右）、パワーウインドウ（右）、電気式ドアロック（右）、カーテシライト（右）
4	リヤドア LH	20 A	リヤドアクローザー（左）、ドア ECU（左）、パワーウインドウ（左）、電気式ドアロック（左）、カーテシライト（左）
5	リヤシート LH	30 A	後席パワーシート（左）
6	フロントシート LH	30 A	アジャスタブルショルダーベルトアンカー、助手席パワーシート
7	フーエルオープン	10 A	フューエルリッド、トランク
8	リヤー IG	10 A	シートベルトテンションリデューサー、リヤエアコン、リヤカーテン、リヤシート ECU、TEL 無線機、リフレッシュシート ECU、リヤドア ECU

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	ストップ&テイル 2	10 A	制動灯 / 尾灯
10	ストップ&テイル 3	10 A	制動灯、リヤフォグライト、尾灯、後退灯、ハイマウントストップライト
11	RR LAMP RH	20 A	灯火 ECU（右）
12	RR LAMP LH	20A	灯火 ECU（左）
13	TEL	20 A	TEL、TEL 無線機
14	リヤシート RH	30 A	後席パワーシート（右）
15	リアー ACC	10 A	TEL、TEL 無線機オーディオ、シガレットライター電源
16	エレクトロニクス B	10 A	リヤエアコン、オーディオ、トランクルームライト
17	リア MPX-B	10 A	ボディ ECU、ドア ECU、灯火 ECU

知識

■ヒューズを交換したあと

● 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 236）

● 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- ●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

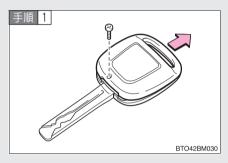
キーの電池交換

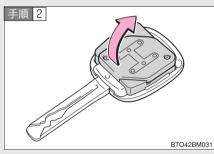
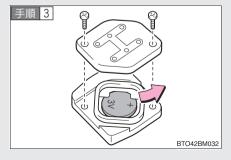
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

● 小さいプラスドライバー

● リチウム電池（CR1616）

■ 電池交換のしかた

ネジ（1 本）をはずし、カバーをはずす

カバーは、矢印の方向に押しながら取りはずします。

モジュールを取り出す

ネジ（2 本）をはずし、モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

モジュールのフタをはめる際、O リングがあることを確認してください。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

●ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1616 の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

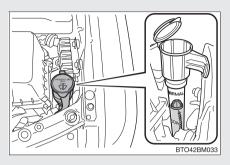
■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
　錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

側面の目盛りで、フロート上部が NORMAL と LOW のあいだにあることを確認する

フロート上部が LOW の位置に近付いたら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

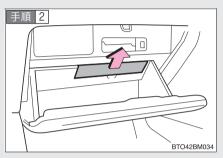
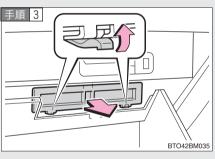
必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

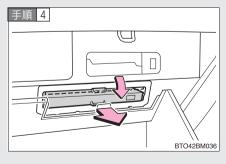
エアコンフィルターの清掃、交換

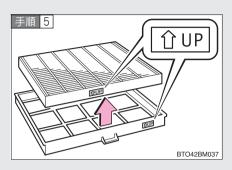
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ フロントエアフィルターの交換

手順 1

エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

グローブボックスを全開にし(→P. 196)、カバーを上に引き抜きます。

フィルターカバーをはずします。

左右のロックノブをつまみ、ロックを解除してから手前に引いて取りはずします。

フィルター本体を取りはずします。

フィルター本体を下に降ろし、手前に引き抜きます。

フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■フロントエアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：10,000km[5,000km※] ごと

交換：30,000km ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

■エアピュリファイヤー付リヤエアコンのエアフィルターついて

エアピュリファイヤーにはフィルターが取り付けられています。エアピュリファイヤー付リヤエアコンについては別冊「後席用取扱書」をご覧ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

スパークプラグの交換

この車は特殊なスパークプラグを使用しています。

⚠ **注意**

■**交換について**

専用のスパークプラグを使用しているため、量販店などで購入したスパークプラグを装着すると失火の原因となり、メーター内のエンジン警告灯が点灯します（→P. 276）。
スパークプラグを交換する際は、トヨタ販売店にご相談ください。

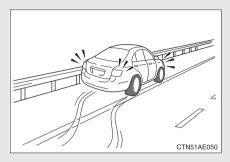
トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 379）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 380）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

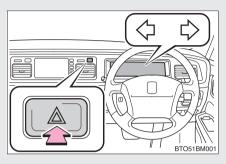
知識

■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯

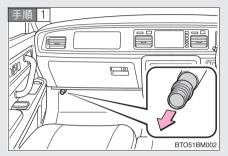
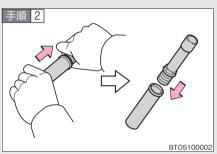
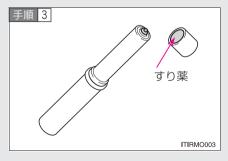
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む

先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

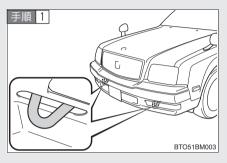
■発炎筒の取り扱いについて

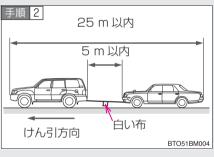
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布をつける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ ON ” にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

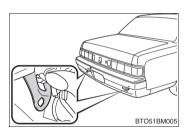
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

警告

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

●エンジン スイッチを “ LOCK ” にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

●ワイヤーロープは使用しない

●速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

●前進方向でけん引する

●サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS & ブレーキアシスト警告灯** ・ABS & ブレーキアシストの異常 ・TRC の異常 ・VSC の異常
VSC	**VSC 警告灯** 次のいずれかの機能の異常 ・VSC の異常 ・TRC の異常 ・EFI システムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	**開いているドアを閉める**
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
助手席	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**

※　**運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 120 秒間断続的に鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約 30 秒後にブザーの音がかわります。）

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

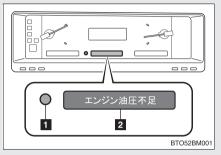
（→P. 78）

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。

1 警告表示灯

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

※図ではシーケンシャルシフト車で代表しています。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足 （点滅）	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いときに表示されます。

ただちに停車してください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ　パッド （点滅）	**ブレーキパッドが消耗している**
充電系統 （点滅）	**充電系統の異常**
タイヤ圧システム （点灯）	**タイヤ空気圧警報システムの電気的異常**
ＥＦＩ （点灯）	**エンジン電子制御システムなどの異常**
エアサス （点灯）	**電子制御エアサスペンションの電気的な異常**
エアサスＯＦＦ （（点灯）	**エアサスシステムが OFF になっている**

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席　ドア (点滅)	**各ドアやトランクが確実に閉まっていない** 表示されたドアやトランクが確実に閉められていないまま、車速が約 5km/h 以上になると、表示されます。 (車速が約 5km/h 未満のときは点灯表示となります。)	各ドアやトランクを閉める
助手席　ドア (点滅)		
後席右　ドア (点滅)		
後席左　ドア (点滅)		
トランク　開 (点滅)		
ブレーキ液不足 (点滅)	**ブレーキ液の不足** **ブレーキ油圧に異常があると、連動して警告音が鳴ります。**	ブレーキ液を補給する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
パーキング　ブレーキ （点滅）	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になった**	パーキングブレーキを解除する
タイヤ圧不足 （点灯）	**走行中にタイヤ空気圧が低下した**	指定空気圧に調整する （→P. 315）
バックランプ （点灯） リヤフォグランプ （点灯）	**次のとき電球がきれていることを検知して点灯します** ・バックライト（後退灯）はシフトレバーが R のとき ・リヤフォグライト＊は点灯条件が成立したとき（→P. 136）	電球を交換してください （→P. 244）
電子アクセル （点灯）	**電子制御スロットル（ETCS – i）システムの電気的な異常**	次ページの対処方法に従って処置してください

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電子制御スロットル（ETCS − i）システムの電気的な異常時の対処法

手順 1 安全な場所に停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかける

手順 2 アクセルを踏み込んだときにエンジン回転が上がるかを確認する

エンジン回転が上がる場合

通常の運転方法でそのまま走行できますが、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン回転が上がらない場合

アクセルペダル系の故障です。ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。また、車両をより安全な場所に移動させる場合には次の「アクセルペダルでエンジン回転が上がらないときの移動方法」で車両を動かせます。よくお読みになってから移動させ、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

アクセルペダルでエンジン回転が上がらないときの移動方法

通常の走行方法と異なり、ブレーキペダルのみで速度調整を行います。

手順 1 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 2 シフトレバーを D に入れる

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んだままパーキングブレーキを解除する

手順 4 ブレーキペダルを徐々にゆるめると車両が動き、移動できます。

手順 5 減速、停止するときはブレーキペダルを踏む

⚠ 警告

■事故を防ぐために

アクセルペダルを使用しないでブレーキペダルだけで走行する方法ですので、ペダルの踏み間違いなどに十分注意して運転してください。

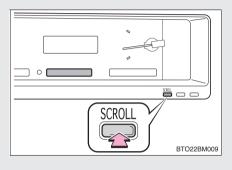
ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
CRUISE （点灯）	**クルーズコントロールシステムの電気的な異常**	ON-OFF スイッチを一度 OFF にしてから再度セットしてください。
冷却水不足 （点灯）	**冷却水の不足**	冷却水を補給してください。
ガソリン　少 （点灯）	**燃料残量が約 14L 未満になっている**	給油してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席　ドア （点灯）	**各ドアやトランクが確実に閉まっていない** 車速が約 5km/h 未満のとき、表示されたドアやトランクが確実に閉められていないことを表示します。（車速が約 5km/h 以上のときは点滅表示となります。）	各ドアやトランクを閉める
助手席　ドア （点灯）		
後席右　ドア （点灯）		
後席左　ドア （点灯）		
トランク　開 （点灯）		

各システムチェック

車の状態をチェックし直し、チェックしている装置名を順にマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイにエンジン回転数を表示しているとき、「SCROLL スイッチ」を押す

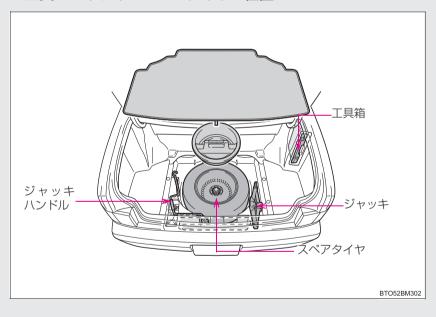
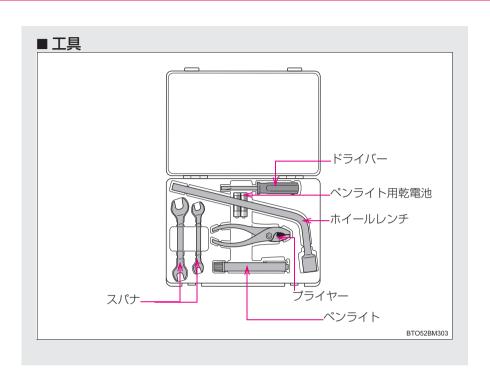
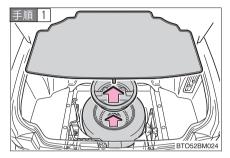
パンクしたときは

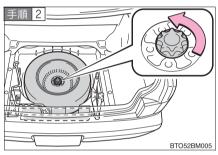
パンクしたタイヤを、備えつけのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 224 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

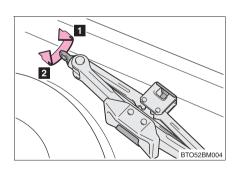
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具・ジャッキ・スペアタイヤの位置

■ 工具

スペアタイヤの取り出し方

ラゲージマットを取り出し、スペアタイヤカバーを取りはずす

スペアタイヤを取りはずす

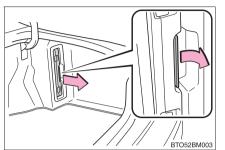
止め具を取りはずし、タイヤを取り出す。

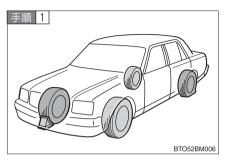
ジャッキの取り出し方

ジャッキを取り出す

1 締める

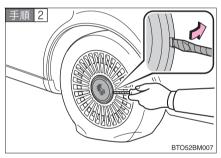
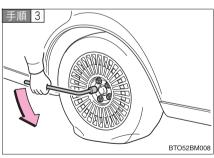
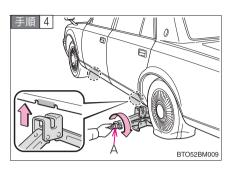
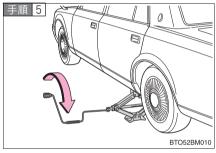
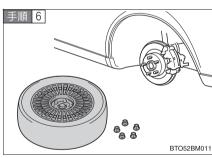
2 ゆるめる

格納するときはジャッキと固定具がかみあうよう確実に固定してください。

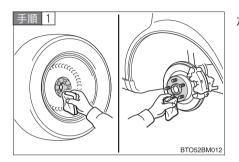
工具箱の取り出し方

ハンドルを引いたまま、工具箱を引き出す

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

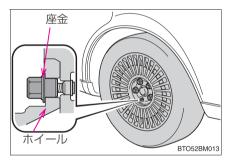
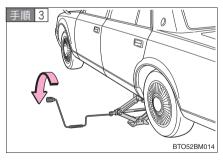
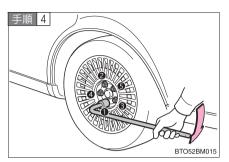
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

センターオーナメントをはずす

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 センターオーナメントを取り付ける

手順 6 パンクしたタイヤを格納し、工具・ジャッキをもとどおりに収納する（→P. 286）

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 315）

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- ●電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずエンジンを停止する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける(→P. 227)

■スペアタイヤを収納するときは

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■パンクしたタイヤを格納するときは

●タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。

●スペアタイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 106）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 108）してもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 106）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 65）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 300）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

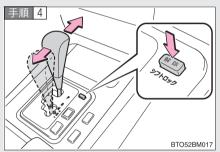
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

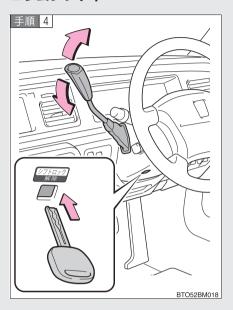
手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを “ ACC ” にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

シーケンシャルシフト車

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

コラムシフト車

コラムカバー下側にある穴にキーを挿し込む

キーを垂直方向に挿し込み、中のプレートを押し上げている間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

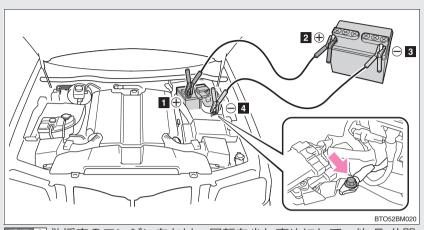
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリーつき救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジンルームカバーをはずす（→P. 234）

手順 2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん“ ON ”にしてから、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの＋端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触しない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする
- ●バッテリーに寄りかかったりしない
- ●誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

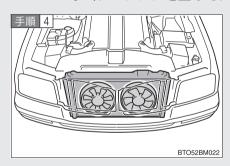
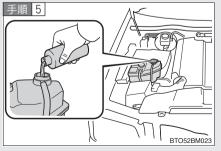
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●ボンネット（→P. 229）、エンジンルームカバー（→P. 234）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを止める

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。(→P. 146)

警告

■脱出するときの警告

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

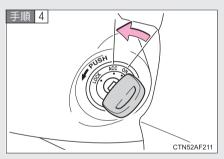
シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

エンジンスイッチを " ACC " にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	95

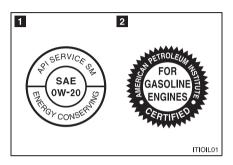
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20※2 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	7.3	8.4

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

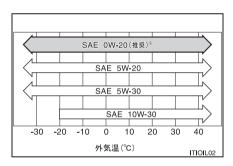
※2 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	11.0

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード　WS	8.9

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル ＬＴ (API GL-5、SAE 75W-85)	1.35

パワーステアリングフルード

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.0

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 4
踏み込んだときの床板とのすき間※	73 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.0

タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
225/60R16 98H	16 × 7J J	200 (2.0)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト 　ハイビーム（バルブタイプ：HB3） 　ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：HB4）	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
	リヤフォグライト*	21

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロント室内灯	8
	フロントパーソナルライト	10
	リヤ室内灯	10
	トランク灯	3.8
	バニティミラーライト	3
	カーテシライト	4.9
	グローブボックスライト	1.4
	後席足元灯	1.4
	角度調整式読書灯	10
	制動灯／尾灯	LED ※
	尾灯 (リヤフォグライト装着車)	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
センチュリー	GZG50	1GZ-FE (5.0L ガソリン)	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック (→P. 25)	ワイヤレス機能	設定	解除
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	自動施錠するまでの時間	約３０秒	長
	ワイヤレスドアロックのブザー音量	中	大
			小
	トランクの解錠	1 回長押し	1 回短押し
			2 回押し
			なし
	半ドア警告ブザー	設定	解除
エンジン スイッチ (→P. 108)	キー抜き忘れ防止チャイムの音量	中	大
			小

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="5">ドアロック
(→P. 28)</td><td rowspan="2">車速感応式ドアロック</td><td rowspan="2">あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>車速が約20km/h 以上になるとリヤドアのみ自動的に施錠</td></tr>
<tr><td>自動解錠機能（B）</td><td>設定</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>自動施錠機能</td><td>解除</td><td>設定</td></tr>
<tr><td>ドアキーによる解錠</td><td>１回で全ドア解錠</td><td>１回で運転席ドア解錠、連続２回で全ドア解錠</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パワーウインドウ
(→P. 58)</td><td>ドアキー連動開閉機能</td><td>設定</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスリモコン連動開閉機能</td><td>設定</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>ライト自動点灯・消灯システム
(→P. 133)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>レベル３</td><td>レベル１～５</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ワイパー＆ウォッシャー
(→P. 137)</td><td>停車時作動切りかえ</td><td>設定</td><td>解除</td></tr>
<tr><td>ワイパー停止位置</td><td>フルコンシールド</td><td>セミコンシールド</td></tr>
<tr><td>液だれ防止機能</td><td>設定</td><td>解除</td></tr>
<tr><td rowspan="5">イルミネーション
(→P. 192)</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">15 秒</td><td>7.5 秒</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td>エンジン スイッチ“LOCK ”後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>足元照明の点灯</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤ空気圧調整時 ・タイヤ、ディスクホイールの交換およびタイヤローテーションを行った時	→P. 225
バックガイドモニター	・バッテリーの充電、交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	別冊「エレクトロマルチビジョン取扱書」

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

お

か

き

症状別さくいん

シーケンシャルシフト車

BTO61BM001

コラムシフト車

BTO61BM002

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯 P. 275

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 277

ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 276

助手席シートベルト非着用警告灯 P. 277

VSC 警告灯 P. 276

半ドア警告灯 P. 277

SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 P. 276

エンジン警告灯 P. 276

警告メッセージが表示された

P. 278 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

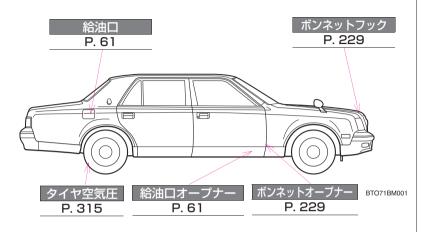
■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 275）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 278）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 108
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 114 P. 117
	シフトダウンしたとき	P. 114
	ブレーキを踏んだとき	P. 102

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	95L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン　P. 62, 310
タイヤが冷えているときの空気圧	200（2.0）kPa (kg/cm2)
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 7.3L オイルとフィルター交換時 8.4L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・SM 10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・SL 5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20) ・SL 10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)

センチュリー セ-14

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社

http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷 IB-2012年3月19日
●発行 -2011年8月1日 初版
2012年3月26日 2版

M 40443
01999—40443